安息日聖書教科

パウロによる福音：ヘブル書

Vol. 100 No.1
2024年1月-3月

目次

1. 神の御子：宇宙の創造主 5
2. 人の子：御使よりも少し低く 10
3. イエス：使者また大祭司 15
4. 神の安息 20
5. キリスト：永遠の救いの創始者 26
6. 理解において成長する 31
7. 二つの契約 36
8. 古い契約 41
9. 地上と天の聖所 47
10. キリストの犠牲のまさったところ 52
11. 信仰の英雄たち 57
12. イエスを仰ぎ見つつ 62
13. 覚えるべき訓告 67

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.99,No.4

編集&発行：
SDA改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL : (0494) 22-0465

URL :
http//www.4angels.jp

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト : GoodSalt on the front cover; Adobe Stock on pp. 25, 72; Map Resources on pp. 46, 72.

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔 〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

Printed in Japan

まえがき

わたしたちの救いに関わる命の真理を理解することは、どれほど重要なことでしょう！闇が地を覆い、はなはだしい闇が人々をおおっています。しかし、わたしたちの創造主は天からの尊い光を真剣に求めるすべての人の上に輝かせたいと切望しておられます。聖書の中の非常に多くの点がこの暗い世に対するすばらしい光の灯台のようです。これこそ、次の三か月間、世界中の安息日学校の生徒たちはパウロによる福音：ヘブル書を学んでいく理由です。

ヘブル書は神の性質とキリストの性質について多くのことを教えてくれます。このお方の安息日の休息、このお方の天の聖所におけるわたしたちのための働き、わたしたちと結ばれる契約、わたしたちはまた信仰の英雄たちと、わたしたちの信仰の創始者であり完成者であられるイエス・キリストの引き上げてくれる証によって励まされます。祈りをもってこれらの教訓を学ぶことにより、わたしたちはわたしたちの主とより深く緊密な関係に入ることができます。

「キリストは宮の土台であり、いのちであった。宮の儀式は神のみ子の犠牲を象徴していた。祭司職は、キリストの仲保者としての性格と働きをあらわすために設けられていた。いけにえをささげる礼拝の制度全体は、世の人々をあがなわれる救い主の死を予表していた。」（各時代の希望上巻 192, 193）

「真のクリスチャンは聖潔をもたらす経験を持っている。彼は良心に罪責のしみがなく、魂に腐敗も汚れもない者である。物事を制限する原則を含んでいる神の律法の霊性が、彼の生活に持ち込まれる。真理の光は彼の理解力を明敏にする。救い主に対する完全な愛の輝きが彼の魂と神の間にある毒気を一掃する。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 909）

わたしたちがキリストに近づくにつれ、お互いもまた近づいていきます。後の雨の力のうちに聖霊が注ぎ出されるための準備において、おどろくべき結果が見られることでしょう。

「諸教会が生きた働く教会となるとき、聖霊は彼らのまごころからの要求に答えて与えられるであろう。そのとき神のみ言葉の真理は新しい関心をもって注目され、あたかも上の宮廷からの啓示であるかのように探索されることであろう。キリストに関する霊感の宣言一つ一つが、このお方を愛する人々の魂の奥深くをつかむであろう。妬み、嫉妬、邪推は止むであろう。聖書は天からの宣言だとみなされるであろう。その研究は思いを夢中にさせ、その真理は魂をもてなすであろう。今は魂がこのお方の愛を味わったことがないかのように繰り返されている神の約束が、その時には心の祭壇の上で明々と輝き、神の使者の唇からは燃える言葉がこぼれるであろう。彼らは断ることのできない真剣さをもって魂に訴えるであろう。そのとき天の窓が後の雨の注ぎのために開かれるであろう。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 2 月 25 日）

この祝福された経験が、これらの教訓を研究されるすべての人に臨み、わたしたちの心を贖い主の力のうちに強めてくれますように。

世界総会安息日学校支部

安息日 2024 年 1 月 6 日

第一安息日献金

ルーマニア・ブレアザの「エデン」健康センターのために

神の恵みにより、ルーマニアの「エデン」保健センターは約 25 年前に開設されました。 長年にわたり、この施設は、苦しみを抱えた人々が私たちの霊的教えと健康の教えに触れるオアシスとして、苦しみに身体的および精神的両方の救済を提供してきました。 ここでの働きは種まきの一つであり、神はその種を神の時に成長させ実を結ぶようにもたらしてくださいます。

ヨーロッパ全土での全般な法律の変更と、多くの人命が失われたルーマニアでのいくつかの暴力的な建物火災の結果、火災安全に関する法律は過去 6 年間で大幅に変更され、より厳格な措置を施行しました。私たちの機関では、財政上の可能性を大幅に超える立法上の要求を実現するための措置を講じてきました。 ルーマニアだけでなくヨーロッパや米国の他の地域から来た寛大な兄弟たちは , 私たちの必要を知って , 自分たちの能力に応じてすぐに援助し , 事業の推進のために資金を送ってくれました。 しかし、必要は依然として非常に大きいです。 したがって、世界中の親愛なる同胞の皆さん、私たちはこの医療宣教センターが地方自治体からの検査、制約、罰金に妨げられることなく活動を継続できるように、この医療宣教センターの改築に親切に協力してくださる寛大なご厚情をお願いします。

「神の働きはもっと拡張しなければならない。そしてもし神の民がこのお方の勧告に従うなら、最後の炎のうちに燃えることになる資金を彼らが多く所有していることはないであろう。すべての者は虫が食い、さびがつかないところへ宝をたくわえるであろう。そして心には地に結びつけるひもはないであろう。」（教会への証 1 巻 197）

この時代の必要を視野におき、できる間にまわりにいる人々を助けるために最善を尽くそうではありませんか。「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく、自ら心で決めたとおりにすべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。神はあなたがたにあらゆる恵みを豊かに与え、あなたがたを常にすべてのことに満ち足らせ、すべての良いわざに富ませる力のあるかたなのである」（コリント第二 9：7，8）。献金と献金を捧げる人に神様の祝福がございますように！

ルーマニア・ブレアザの「エデン」健康センターから皆さんの兄弟姉妹より

コロンビアの南西フィールドのキリストにおける兄弟より

第１課　　2024 年１月６日

神の御子：宇宙の創造主

暗唱聖句：「［神は］この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。」(ヘブル 1:2)

「この世の初めに、神はすべての創造のみわざのうちにご自分をあらわされた。天をのべ、地の基をおかれたのはキリストであった。もろもろの世界を空間にかけ、野の花をよそおわれたのはキリストのみ手であった。神は『そのみ力によって、もろもろの山を堅く立たせられる』『海は主のもの、主はこれを作られた』（詩篇 65:6, 95：5)。地を美しさでみたし、空中を歌でみたされたのはキリストであった。地と空中と空のすべてのものの上に、キリストは天父の愛のことばをお書きになった。」(各時代の希望上巻 2)

推奨文献：各時代の希望上巻１－13

日曜日　*12 月 31 日*

1.　　神からの通信

a.　罪を犯した後、神は先祖たちにどのように語られましたか（ヘブル 1:1; ペテロ第二 1:21)。

「罪がこの世に入る前には、アダムは創造主と分け隔てのない交わりをしていた。しかし人間が罪を犯して神から離れてからは、人類はこの尊い特権から切り離されてしまった。しかし、救済の計画によって、地上の住民がなお天とのつながりを保つ道が開かれた。神は、聖霊によって人間と交わり、選ばれたしもべたちの啓示によって、天来の光を世にお与えになった。人々は、『聖霊に感じ、神によって語った』のである（ペテロ第二 1：21)。」（各時代の大争闘序文 (1)）

b.　どのように神はこの終わりの時代にご自身を現わされますか（ヘブル 1:2; ヨハネ 14:8, 9)。

「人間の創造主であられるお方は、シナイ山で永遠の律法を宣言され、死の苦しみの中でご自分が、とがと罪とを許す権威をお持ちであることを立証なさった。」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1909 年 8 月 26 日)

2.　キリスト、御父、そして天使たち

a.　キリストと御父との間の関係はどのようなものでしょうか（ヘブル 1:3; ヨハネ 10:30）。

「神は有形の実在者たる神としてご自身を御子の中にあらわされた。父の栄光の輝きであり、『神の本質の真の姿』であるイエスは実在者である救い主としてこの世に来られた（ヘブル 1:3）。彼は個性を持たれる救い主として天にのぼり、個性を持たれる救い主としてとりなしておられる。」（信仰によってわたしは生きる 40）

「キリストは、天父の本質の真の姿であられた。人は罪に落ちたが、神の戒めに従うことによって神のみかたちと品性が心に銘記され、神の愛の美しさで飾られるようにキリストは神の道徳的みかたちを人間の内に回復するために我々の世界に来られた。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 921）

b.　天使たちとの関係においてキリストはどのような立場におられますか（ヘブル 1:4–6）。

「ヘブル人への手紙の第一章は、天使たちの立場とキリストの立場を対照させている。神がキリストに関して語っておられる。それは、天使たちに適用すべきではない。天使たちは『救いを受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたもの』である。しかしキリストは仲保者として贖いの働きにおける偉大なる奉仕者である。聖霊は、我々の世界におけるキリストの代理者であり、堕落した人類を勝利者とするという神の目的を遂行するために、天来の力をもたらす。イエス・キリストと契約を結ぶすべての人々は神の養子となる。彼らはみ言葉の再創造の力によって清くされる。そして、彼らに奉仕する任務が天使たちに与えられているのである。」（同上 922）

「天使ガブリエルが人間の性質をまとって、神の知識を教えるために、この世に送られたとしたら、人々はどれほど熱心に彼の教えを聞いたであろうか。彼がわたしたちに純潔と聖潔の完全な模範を示して、わたしたちの悲しみ、不幸、苦悩、罪の罰に苦しむことなどすべてにおいて、わたしたちに同情してくれると想像するなら、わたしたちはどれほど熱心に彼に従うことであろうか。彼はどれほど高められることであろうか。彼をダビデの王座につかせ、彼の旗の下に地の諸国民を集めたいと、人々はどれほど願うことであろうか。…

しかしどんなに想像してみても、それをはるかに超えたお方が天から地上へ来られた。約二千年前、不思議な神秘的な声が神の御座から聞こえた。『あなたはいけにえやささげ物を望まれないで、わたしのためにからだを備えてくださった。…神よ、…見よ、御旨を行うためにまいりました』。」（彼を掲げよ 34）

3.　「あなたこそは、わたしの子」

a.　イエス･キリストに関して詩篇記者によって何が預言されていましたか（詩篇 2:7）。いつ、またどのようにしてこの預言は成就しましたか。

I. このお方の受肉の時（ヘブル 1:6）。
II. このお方のバプテスマの時（マタイ 3:16, 17）。
III. このお方の復活の時（使徒行伝 13:33; コロサイ 1:18; 黙示録 1:5）。
IV. このお方の祭司職（使徒行伝 2:33; ピリピ 2:9; ヘブル 5:5, 6）。

b.　御父はどのように御子をお呼びになりますか（ヘブル 1:7–13）。

「［ヘブル 1:4 － 12 引用］ このみ言葉の中で、主イエスの全能性が示されている。彼は聖書を学ぶ者に、世界の創造主として、またその正当な支配者として紹介されている［ヘブル 1：13，14 引用］。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 921）

c.　礼拝されるべき唯一のお方は誰でしょうか（マタイ 4:10）。

「サタンはキリストにご自分が神の子であるという証拠を示すように要求したが、この事例において彼には自分が求めた証拠があった。キリストの神聖な命令により、彼は従うことを余儀なくされた。彼は撃退され沈黙させられた。彼には強制退却に耐える力はなかった。彼は一言も発することなく即座に世の贖い主のもとを去ることを余儀なくされた。」（闘争 54）

d.　預言者ヨハネが天使ガブリエルを礼拝しそうになった時、彼は天使からどのような警告を受けましたか（黙示録 19:10; 22:8–10）。

e.　なぜイエスは礼拝されることをお受入れになったのでしょうか（マタイ 8:2, 3; ヘブル 1:8–10）。

「正義は満足させられたと宣告される神のみ声が聞こえる。サタンは征服された。地上にあって苦労し、戦っている人々は『愛する御子によって』受け入れられる（エペソ 1：6）。天のみ使いたちと他世界の代表者たちの前で、彼らが義とされたことが宣告される。キリストのおられるところに、その教会もある。『いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし』た（詩篇 85：10）。天父はみ子をだきかかえ、『神の御使たちはことごとく、彼を拝すべきである』とのみことばが発せられる（ヘブル 1：6）。」（各時代の希望下巻 386）

4. 天の天使たち、神の牧師たち

a. 信者に対する神の天使たちの使命は何ですか（ヘブル 1:14）。

「この世にある教会に力と効果的な働きが与えられるためには、神聖な働きが必要である。地上にある神の家族は、誘惑や試練の下にあって、神の愛の御心にとても近くある。このお方は天の知的存在者たちとこの地上にいるこのお方の子供たちとの間の通信が保たれるように定められた。救いを受け継ぐ者たち、すなわち忠実な戦士としてキリストの苦しみにあずかっている者たちに奉仕するために天の法廷から天使たちがつかわされる。キリストはご自分の民の中にお住みになっているお方として表されている。彼らは時期に応じた食物で養われなければならない。であるから、彼らと上にある教会との間にはつながりが確立されたのである。農夫がぶどう畑の世話をするように、神はご自分のお造りになった人間を見守っておられる。」（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1900 年 2 月 14 日）

b. 主を恐れる者たちのために何が約束されていますか（詩篇 34:7）。

「天の支配者や権威者たちは、神のしもべたちが、見たところ思わしくない状況のもとで続けている戦いを見守っている。クリスチャンが救い主のみ旗のもとにはせ参じ、信仰の戦いを立派に戦いぬくとき、新しい勝利が遂げられ、新しい名誉が勝ちとられているのである。天使たちはみな神のつつましい信徒たちに仕えている。この地上で神の働き人の軍がさんびの歌をうたうと、天の聖歌隊も彼らに合わせて神とそのみ子にさんびをささげる。

われわれは天使の働きについて、現在以上によく理解する必要がある。真実の神の子らはみな、天使たちの協力を受けていることを忘れずにいるがよい。目には見えないが、光と力の軍隊は、神を信じ、神の約束を求める柔和で謙遜な者たちにつきそっているのである。ケルビムやセラピムや力にぬきんでた天使たちが神の右手に立っているが、『すべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされたもの』たちである（ヘブル 1：14）。」（患難から栄光へ上巻 164，165）

「朝、目が覚めると、あなたは自分の無力さと、神の力の必要を感じるであろうか。また自分の願いをへりくだって真心から天の神に訴えるであろうか。もしそうなら天使たちはあなたの祈りに注目する。その祈りが偽りの唇から出たものでなければ、気が付かずに悪いことをしようとしたり、他人を悪に導くような感化を及ぼす危険があったりすると守護の天使が側に立ってあなたを正しい道に導き、語るべき言葉を選び、取るべき行動を教えてくれるのである。」（青年への使命 81）

木曜日 *1月4日*

5.　　力強い天の戦士

a.　アッスリヤの王セナケリブはユダの王ヒゼキヤにどのような挑戦をしましたか（イザヤ 36:1–8）。

「今や、ユダの唯一の救いの望みは神であった。エジプトからの援助はことごとく切断され、援助の手を差しのべる他の国は近くになかった。

アッスリヤの将校たちは、彼らのよく訓練された軍勢の力を確信してユダの指導者たちと会議を開き、その席上で無礼にも都の明け渡しを要求した。この要求には、ヘブルの神に対する、不敬なののしりも伴っていた。イスラエルとユダの弱さと背信のために、神のみ名は諸国の間でももはや恐れられることがなくなり、絶えず物笑いの種になっていたのである（イザヤ 52:5 参照）。」（国と指導者上巻 317）

b.　神の民がアッスリヤの軍によって滅亡の危機にさらされた時、ヒゼキヤはどこに助けを求めましたか（イザヤ 37:1–5; 歴代志下 32:20）。

c.　困難な時に主はご自分の子らの祈りにどのようにお答えになりましたか（列王記下 19:6, 7; イザヤ 37:6, 7）。

「神はしもべたちの祈りを聞かれた。ヒゼキヤに伝えるべき言葉がイザヤに与えられた。（列王記下 19：6，7）」（同上 319）

d.　主は誇り高いアッスリヤの王を倒すためにどのぐらいの天使をお用いになりましたか（イザヤ 37:36–38; 歴代志下 32:21）。

「救いが与えられたのは、まさにその夜のことであった。」（同上 327）

金曜日 *1月5日*

個人的な復習問題

1. **どのように天において創造主が人類と語られるか説明しなさい。**
2. **キリストと天使の間の重要な違いを挙げなさい。**
3. **御父と御子の間の関係について何が明らかにされていますか。**
4. **なぜわたしたちは聖なる天使たちに感謝すべきなのでしょうか。**
5. **ヒゼキヤが危機に直面したことからわたしたちは何を学ぶことができますか。**

人の子：御使よりも少し低く

暗唱聖句：「ただ、『しばらくの間、御使たちよりも低い者とされた』イエスが、死の苦しみのゆえに、栄光とほまれとを冠として与えられたのを見る。それは、彼が神の恵みによって、すべての人のために死を味わわれるためであった。」（ヘブル 2：9）

「キリストは『御使たちよりも低い者とされ…死の苦しみ』に合われるのであった（ヘブル 2：9）。彼が人格をおとりになれば、彼の力は天使の力とは同じでなくなる。それで、彼らはキリストに仕え、苦しみに合われる彼を力づけ慰めるのであった。」（人類のあけぼの上巻 55）

推奨文献：人類のあけぼの上巻 53-64

日曜日　*1月7日*

1.　　もっと熱心さが必要

a.　わたしたち一人一人にどのような厳粛な訴えが投げかけられていますか（ヘブル 2:1, 2）。

b.　「こんなに尊い救いをなおざりにしては」わたしたちに希望があるでしょうか（ヘブル 2:3）。

「もし宗教が何を意味するかについて混乱した考えしか持たない著者に目立つ場所と熱烈な敬意を与え、聖書を第二とするならば、わたしたちは自分の救いをなおざりにしているのである。終わりの時代のための真理に関して啓発されてきた人々は、今日全般的に研究されている書物の中に、わたしたちの世に来ようとしている事柄に関して教えを見出すことはない。しかし聖書は神の知識に満ちており、この世の生涯においても永遠の命のためにも学生を有用なものと教育するために十分である。」.（クリスチャン奉仕の基礎 403）

「花婿が結婚式から戻って来るときに出迎える者となるために、自分たちのランプの芯を切りそろえ、燃やし続けることは神の民の義務である。あなたは自分のために提供されてきた偉大な救いをなおざりにして失うべき時間は一瞬もない。魂の恩恵期間は終りに近づいている。日々人々の運命は印されており、この会衆からでさえ、わたしたちはどれだけの人が死のうちに目を閉じ、墓のために衣服を着せられることになるかわからないのである。わたしたちは今自分の命がすみやかに過ぎ去りつつあること、自分たちの命がキリストと共に神のうちに隠されているのでなければ、一瞬たりとも安全ではないことを考えるべきである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 189）

2.　　人：この地球の王

a.　人をお造りになった時の神の御目的は何でしたか（創世記 1:26, 27）。

「アダムはエデンの中で王冠をかぶった王であった。彼には神が創造されたすべての生けるものを統治する支配権があった。主はアダムとエバを他のどんな被造物にもお与えにならなかった知性をもって祝福された。このお方はアダムをご自分のすべてのみ手のわざを統治する正当な君主となさった。神のかたちに造られた人間は、自然の中にある神の栄光みわざを熟考し、正しく評価することができた。」（闘争 10, 11）

b.　人の罪の結果、この世の君は誰になりましたか（ヨハネ 12:31; 14:30）。

「世の重大な形勢は、光の君と暗黒の王国の指導者との争闘にかかっていた。人を罪に誘惑してから、サタンはこの地上を自分のものとして主張し、自らこの世の君と称した。彼は人類の父母を自分の性質に従わせたので、ここに自分の王国を築こうと考えた。彼は、人類が彼を自分たちの君主にえらんだと宣言した。人類を支配することによって、彼はこの世の主権を保った。キリストはサタンの主張が誤りであることを証明するためにおいでになった。人の子として、キリストは神に対する忠誠を保たれるのであった。そのことによって、サタンは人類を完全に支配していないこと、世に対する彼の主張はうそであることが示されるのであった。サタンの権力から救われたいと望む者はみな自由にされるのであった。罪のためにアダムが失った主権は回復されるのであった。」（各時代の希望上巻 120，121）

c.　キリストの十字架上の勝利で、何が起こりましたか（黙示録 12:10）。

「天において兄弟たちを訴える者であったサタンが投げ落とされたのは、ご自身の生命を捨てるというキリストの偉大な働きによって成し遂げられたのである。サタンの頑強な反対にもかかわらず、贖いの計画は実行された。人はキリストにとってご自分の命を犠牲にするほど、十分な価値があると評価されたのである。サタンは最後には彼が横領した帝国がもぎ取られることを知り、骨身を惜しまないで神が神の形に創造された人間を、できるだけ多く滅ぼそうと決心した。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 973）

3. 堕落した人類のための希望

a. どれほど多くの人々がキリストの血によって買い取られましたか（ヘブル 2:9; ヨハネ 3:16）。

「『あなたがたはもはや自分自身のものではないのである。あなたがたは代価を払って買い取られたのだ』…。堕落した人類を贖うためになんと大きな代価が支払われたことであろうか！」（この日を神と共に 255）

「キリストが天の宮廷を去り、ご自身の立場を人類のかしらとするにはどれほどの価を支払うかを考えてみなさい。キリストはなぜこれをされたのであろうか。なぜなら、堕落した人類を贖うことのできるのはこのお方だけだったからである。世界中に罪のない人間がいなかったからである。神の御子は天のみ座から降り、王衣と王冠を脱ぎ捨て、ご自分の神性を人性で覆われた。このお方はわたしたちのために死に、人類がしなければならないように墓の中に横たわり、わたしたちを擁護するためによみがえるために来られた。このお方は人間が悩まされる誘惑すべてをよく知るために来られた。墓から起き上がり、ヨセフの借りた埋葬所の上で『わたしはよみがえりであり、命である』と宣言された。神と等しいお方がわたしたちのために死を経て行かれた。このお方はすべての人間のために死を味わわれたが、それはご自分を通してすべての人が永遠の生命にあずかる者となるためであった。」（天国で 13）

b. イエスはだれをご自分の兄弟と呼ばれますか、それはなぜですか（ヘブル 2:11; ヨハネ 17:17）。

「イエス・キリストは万事においてわたしたちの模範であられる。このお方は命を始められ、命の経験を経て、その記録を聖化された人の意志をもって終えられた。このお方はわたしたちと同じようにあらゆる点において誘惑されたが、なおこのお方がご自分の意志を明け渡し聖化されたために、決してほんのわずかでさえ悪を行う方向や神に対する反逆を表す方向へ傾くことがなかった。…聖化された意志を持つ人々、つまりキリストのご意志と一つに調和している人々は日々、自分たちの意志をキリストの意志に結びつけ、それは他人への祝福のうちに行動し、自らに神の力をもって反応が返ってくる。多くの人々が魂に対して戦うものを培っている。なぜなら、彼らの願望や彼らの意志が神に敵対して固まっており、サタンの奉仕に用いられているからである。

これ以上わたしたちの悪い意志の力についてつぶやくことによって、敵を喜ばせないようにしよう。なぜなら、そうすることによってわたしたちは神に敵対する自分の意志に食物を与え、奨励し、邪悪なものを喜ばせているからである。自分たちが神からわたしたちにもたらされる聖なる意志を抱くと誓った神の子であることを覚えていよう。『しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである』。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1894 年 10 月 29 日）

4. 血と肉とに共にあずかる

a. キリストは受肉の際にどのような性質をおとりになりましたか、そしてなぜそれが必要だったのでしょうか（ヘブル 2:14–16）。

「アダムがエデンで罪を知らなかった時でさえ、神のみ子が人の性質をおとりになることは無限の屈辱に近かった。ところがイエスは人類が 4000 年にわたる罪によって弱くなっていた時に人性をおとりになったのである。アダムのすべての子らと同じように、イエスは遺伝という大法則の作用の結果をお受けになった。そのような結果がどういうものであるかは、イエスのこの世の先祖たちの歴史に示されている。主は、われわれの苦悩と試みにあずかり、罪のない生活の模範をわれわれに示すために、このような遺伝をもっておいでになったのである。」（各時代の希望上巻 35）

「このお方はご自分のご品性に一つもしみがなかったにもかかわらず、わたしたちの堕落した人性をご自分の神性と結びつけるために下ってこられた。このように人性をとられることによって、人性を尊ばれた。わたしたちの堕落した人性をとられることにより、人性はこのお方がそのために備えられた十分な供給を受けることによって、また神性にあずかる者になることによって何になれるかを示された。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 134）

b. キリストはわたしたちの堕落した性質をおとりになったとはいえ、わたしたちはこのお方のご生涯について何を理解すべきでしょうか（ヘブル 7:26; 4:15; ペテロ第一 2:21, 22）。

「［キリスト］は、すべてのことにおいてわたしたちの模範である。このお方は、弱きわたしたちの兄弟となり『すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ』た。しかし、罪なき方であったので、そのご性格が悪を退けたのであった。このお方は罪の世にあって、激しい心の戦いと苦悩に耐えられた。」（キリストへの道 127）

「人間の性質をその堕落した状態においてご自身にとられることにより、キリストはほんのわずかといえどその罪にあずかられたのではなかった。このお方は人間が取り囲まれている虚弱と弱さのもとにあられた。『これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである』（マタイ 8:17）。

このお方はわたしたちの弱さを思いやることがおできになり、あらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑にあわれた。それでいながらこのお方は罪を知らなかった。このお方は『きずも、しみもない』小羊であられた（ペテロ第一 1:19）。サタンがほんのわずかでも罪に対してキリストを誘惑することができたなら、このお方は救い主の頭を砕いたはずであった。彼はただかかとに触れることができただけであった。キリストの頭にふれることができたなら、人類の希望は滅びたはずであった。神の怒りがアダムに臨んだように、キリストに臨んだはずであった。キリストと教会に希望がなかったはずであった」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 256）

木曜日 *1月11日*

5.　　憐れみ深く、忠実な大祭司

a.　天の聖所にわたしたちにはどのような友がおられますか（ヘブル 2:17）。

「［キリスト］はすべての点で兄弟たちと同じようにされた。彼はわれわれと同じように肉体をとられた。飢え、渇き、疲れることがどんなことであるかをご存じであった。食物によって養われ、睡眠によって元気を回復された。み子はこの地上では旅人であり、寄留者であった。この世にあったが、この世のものではなかった。み子は、現代の人々が誘惑され、試みられるのと同じように、誘惑や試みに会われたが、なお罪を犯さない生涯を送られた。優しく、憐れみ深く、同情深く常に他の人々を思いやられて、神のご品性をあらわされた。『言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。…（それは）…めぐみとまこととに満ちていた』（ヨハネ 1:14）。」（患難から栄光へ下巻 165, 166）

b.　人であり神であられるキリストは、わたしたち一人一人のために喜んで何をしてくださいますか（ヘブル 2:18; 詩篇 40:8）。

「イエスがわれわれとともに住むためにおいでになったので、われわれは、神がわれわれの試練をよく知り、われわれの悲しみに同情してくださるということがわかる。アダムのむすこ娘はみな創造主が罪人の友であることをさとることができる。なぜなら、救い主の地上生活にあらわされた恵みの教理の一つ一つに、喜びの約束の一つ一つに、愛の行為の一つ一つに、きよい美しさの一つ一つに、われわれは神がわれらとともにいますことをみとめるからである。…

もしわれわれが、イエスの耐えられなかったことを耐えねばならないとしたら、サタンは、この点で、神の力はわれわれにとって十分ではないと言うだろう。そこでイエスは、『すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである』（ヘブル 4：15）。 イエスはわれわれの会うあらゆる試みに耐えられた。しかも彼はわれわれに自由に与えられていない力をご自分のためにお用いにならなかった。人間としてイエスは試みに会い、神から与えられた力で勝利された。…イエスの一生は、われわれもまた神の律法に従うことができることを証明している。」（各時代の希望 上巻 7 － 9）

金曜日 *1月12日*

個人的復習問題

1. **聖書研究、祈り、そして神への明け渡しをなおざりにすることがなぜ危険なのでしょうか。**
2. **本物の光の君の力と、サタンの高慢な主張を対比しなさい。**
3. **キリストの神聖な救いの申し出からわたしたちはどのような恵みを受けているでしょうか。**
4. **キリストの神性と人間の性質との完璧なつり合いを説明しなさい。**
5. **わたしたちが天におけるキリストのお働きに特別に感謝することができるのはなぜでしょうか。**

イエス：使者また大祭司

暗唱聖句：「そこで、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たちよ。あなたがたは、わたしたちが告白する信仰の使者また大祭司なるイエスを、思いみるべきである。」(ヘブル 3:1)

「キリストを研究しなさい。このお方のご品性をその特徴一つずつ研究しなさい。このお方はわたしたちが自分の生活と品性において模倣するように要求されている型であられる。さもなければ、わたしたちはイエスを代表することに失敗し、世に偽もののコピーを提示することになる。どんな人も模倣してはならない。なぜなら、人間は習慣において、言葉において、ふるまいにおいて、品性において欠点があるからである。わたしはあなたの前に人なるキリスト・イエスを提示する。あなたは個人個人、このお方を自分の型、自分の模範として研究できる前に、このお方を自分の救い主として知らなければならない。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 170）

推奨文献：　ｾﾚｸﾃｯﾄﾞﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 340–344

日曜日　*1 月 14 日*

1.　モーセ以上に大いなる

a.　どのような意味においてキリストはモーセ以上に大いなるお方なのでしょうか（ヘブル 3:1–6）。

b.　いつわたしたちは自分の命を救い主イエスに明け渡すべきなのでしょうか（ヘブル 3:7, 8 (上句)）。

「ああ、どうぞ今日という間に、あなたが主に帰ることをわたしは願ってやまない。あなたの行為の一つ一つがあなたをよくするか悪くするかしているのである。あなたの行為がサタンの側にあるなら、それは有害な結果を生じ続ける影響を残す。純潔な清く聖なる者だけが神の都に入れるのである。『きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら・・・あなたがたの心を、かたくなにしてはいけない』。そして、あなたのたどる道のわだちに悲しみが残ることがないように、主に帰りなさい。」（アドベンチストホーム 402）

「キリストは、いつでも私たちを罪より解放しようとしておられる。けれどもわたしたちの意志を強いることは決してなさらない。もし、わたしたちがどこまでも罪を犯し続ける結果、意志は全く悪に傾き、罪より解放されることを望まず、キリストの恵みを受け入れようとしないならば、いったいキリストは何をなさることがおできになるであろうか。 わたしたちは彼の愛をどうしても受けようとしないため、自らを滅びに陥れるのである。『見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である』（コリント第二 6：2）。『きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、・・・心を、かたくなにしてはいけない』（ヘブル 3：7, 8）。」（キリストへの道 41）

2.　古代イスラエルからの教訓

a.　古代イスラエルの例は人々の不信仰をどのように明らかにしていますか、そしてその確実な結果は何でしたか（ヘブル 3:8–11）。

b.　この現実を念頭において、この終わりの時代を生きるわたしたちにどのような厳粛な訴えが投げかけられていますか（ヘブル 3:12, 13）。

「不信仰に対しては、何の奨励も与えられていない。主は何度も何度も、彼の恵みと力とを示しておられ、これはどのような場合にも信仰を持ち、信仰を語り、信仰を行うことは常に有益であることをわたしたちに教えている。わたしたちは、疑い深い心の暗示に従い、心の中に疑いや不信の種が蒔かれるままに委ねて、心や手を弱らせてはならない［ヘブル 3：12 引用］。

主は、人の意志と行為と協力して働かれる。み言葉によって神を受け入れ、個人的な救い主としてイエスを信じ、このお方が備えられた慈悲深い提案に、熱心に、直ちに答えることは、あらゆる人の特権であり、義務である。人は聖書の中にある神のみ言葉を信じて、従うことを学ぶべきである。彼は感情ではなく、証拠と神のみ言葉を信仰の土台とすべきである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7巻 928）

「イスラエル人の経験をふりかえってみて、彼らの不信とつぶやきに驚き、自分たちであったら、あんなに忘恩的にはならなかっただろうと思う人たちが多い。しかし、彼らの信仰がちょっとした試みによってためされてさえ、彼らは古代イスラエルと同じように信仰も忍耐も発揮しないのである。苦境に陥ると、彼らは神が彼らを清めるために選ばれた道についてつぶやく。」（人類のあけぼの上巻 338）

「神は神の民を清め精練するために、彼らに苦い杯を飲ませられることを、わたしに示された。それは苦い杯である。そして、不平不満呟きによって、それをさらに苦くすることができる。しかし、このようにしてそれを受ける人々は、もう1つの杯を飲まなければならない。なぜならば、最初のものが、心にその意図された効果をあらわさなかったからである。もし2度目の杯が効果をあらわさなければ、その効果があらわれるまで、彼らはまたその次も、そしてまたその次の杯も、飲まなければならない。…この苦い杯は、忍耐、辛抱強さ、祈りによって甘くすることができ、それをこうして受ける人々の心に、その意図された効果をあらわし、神に栄光と誉れとが帰せられることをわたしは見た。…われわれは、自分を喜ばせ、世の中の人々と同様の生活と行動をなし、世の快楽にふけり、世の中の人々との交わりを楽しみながら、キリストとともにみ国で支配することを期待することはできない。」（初代文集 113）

3. 神聖にあずかる者たち

a. どのようにすればわたしたちはキリストにあずかる者となることができるのでしょうか（ヘブル 3:14, 15; ペテロ第二 1:4）。

「わたしたちはキリストを学ばなければならない。わたしたちは、贖われた人々にとってキリストはどういうお方であるかを知らなければならない。わたしたちはこのお方を信じる信仰によって神のご性質にあずかる者となり、世にある欲のために滅びることを免れることは、わたしたちの特権であるということを悟らなければならない。その時、わたしたちはすべての罪、品性のすべての欠陥から清められる。わたしたちは罪深い傾向を一つも持ち続ける必要はない。［エペソ 2：1 － 6 引用］

わたしたちが神のご性質にあずかるにつれて、遺伝的なまた後天的悪への傾向は品性から切り離され、わたしたちは善のために生きた力となる。わたしたちは常に聖なる教師から学び、日毎にこのお方のご性質にあずかり神と協力してサタンの誘惑に勝利する。神は働かれ、人も働く。それはキリストが神と一つであられるように、人がキリストと一つとなるためである。その時、わたしたちは天においてキリストと共に座る。心は平和と確信に満たされてイエスの内に憩うのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 943）

b. イスラエル人はどのように主を怒らせたのでしょうか（ヘブル 3:16）。彼らの挑発が招いた致命的な結果は何でしたか（ヘブル 3:17）。

「人々は反逆して、『この荒野で死んでいたらよかったのに』と叫んだ。今この願いは聞かれることになった。『あなたがたが、わたしの耳に語ったように、わたしはあなたがたにするであろう。あなたがたは死体となって、この荒野に倒れるであろう。あなたがたのうち、わたしにむかってつぶやいた者、すなわち、すべて数えられた 20 歳以上の者はみな倒れるであろう。…しかし、あなたがたが、えじきになるであろうと言ったあなたがたの子供は、わたしが導いて、はいるであろう。彼らはあなたがたが、いやしめた地を知るようになるであろう』と主は宣言された。…斥候たちが 40 日の旅をしたのと同じように、イスラエルの軍勢は、40 年の間荒野をさまようことになった。」（人類のあけぼの上巻 470）

c. どの罪がこの反逆の主な原因となったのですか（ヘブル 3:18, 19）。

「イスラエル人が荒野を 40 年もさまようことは、神のみこころではなかった。神は、彼らをまっすぐにカナンの地に導いて、彼らをそこで、聖く幸福な国民として定住させようとしておられた。 しかし、『彼らがはいることのできなかったのは、不信仰のゆえで』あった（ヘブル 3：19）。」（各時代の大争闘下巻 182）

4.　　イエスのうちに安息を見出す

a.　イエス、わたしたちの救い主からわたしたちはどの特別な招きを受けていますか、またわたしたちはこのお方から何を学ぶべきでしょうか（マタイ 11:28–30）。

「『わたしのもとにきなさい』というイエスの招きである。あなたの心配事や試練が何であろうと、主の前に事情をうち明けなさい。あなたの心には忍耐のささえができる。あなたが困惑や困難からぬけ出す道が開かれる。あなたは自分が弱く無力であることを知れば知るほど、イエスの力によってますます強くなる。あなたの重荷が重ければ重いほど、その重荷を負ってくださる方にまかせた時の休みは有難いのである。キリストが提供される休みは条件つきであるが、その条件は明示されている。それはだれでも応ずることのできる条件である。イエスはその休みがどのようにして見いだされるかを告げておられる。」（各時代の希望中巻 49）

「神以外だれも人の心の誇りを制することはできない。わたしたちは自分自身を救うことができない。わたしたちは自分自身を再生させることはできない。天の宮廷で、わたし自身を愛するわたしのために、わたし自身を洗い、わたし自身を贖い、わたしに栄光と誉と祝福と賛美とがあるように、という歌がうたわれることはない。しかしこの世で多くの人がうたう歌の基調はこれである。彼らは柔和で心がへりくだるということが何を意味するかを知らない。そして彼らは避けられるものなら、それを知ろうともしない。福音の全体はキリストからこのお方の柔和とへりくだりを学ぶことから成り立っている。このお方の信仰による義認とは何か。それは人間の栄光をちりに伏させ、人間が自分の力では自分のためになし得ないことをする神の働きである。」（牧師への証 456）

b.　キリストがわたしたち一人一人に提供なさるくびきは何でしょうか（マタイ 11:29）。

「『わたしのくびきを負いなさい』とイエスは言われる。くびきは奉仕の道具である。牛は労働するためにくびきを負わされるが、それは牛が効果的に働くために必要なのである。この実例によって、キリストはわれわれが、命のあるかぎり、奉仕に召されていることをお教えになっている。われわれはキリストと共に働く者となるために、キリストのくびきを身に負うのである。

奉仕にむすびつけるくびきは神の律法である。エデンであらわされ、シナイで布告され、新しい契約のもとに心にしるされる偉大な愛の律法は働く人間を神のみこころにむすびつけるものである。もしわれわれが自分の好むままに歩み、自分の意志の命ずるところへどこへでも行くままに放っておかれるならば、われわれはサタンの隊列にはいりこみ、サタンの特性を持つ者となるであろう。そこで神は、われわれを高い、とうとい、そして向上させるご自身のみこころにつながれるのである。」（各時代の希望中巻 49，50）

木曜日 *1月18日*

5.　　キリストのくびき

a.　イエスはご自分のくびきに関してなんと仰せになっていますか（マタイ 11:30; ヨハネ第一 5:2, 3）。

「くびきは、牛が荷物をひくのを助けるため、また重荷を軽くするために牛にかけられる。キリストのくびきもこれと同じである。われわれの意志が神のみこころのうちに没入し、他人を祝福するために神の賜物を用いる時、われわれは人生の重荷を軽く感ずる。神の戒めの道を歩む者は、キリストを道づれとして歩いているのであって、その心はキリストの愛のうちに休まる。モーセが、『どうか、あなたの道を示し（てください）』と祈った時、主は『わたし自身が一緒に行くであろう。そしてあなたに安息を与えるであろう』と彼に答えられた（出エジプト 33：13，14）。また預言者たちを通して次のメッセージが与えられた。『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ』（エレミヤ 6:16）。また神はこう言われる、『どうか、あなたはわたしの戒めに聞き従うように。そうすれば、あなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようにな（る）』（イザヤ 48：18）。

キリストをみことば通りに信じ、自分の魂をキリストの守りに委ね、その生活をキリストの命令に従わせる者には、平安とおだやかさがある。イエスがそのご臨在によって彼らをよろこばせてくださる時、この世のどんなものも彼らを悲しませることができない。ただ黙々として従うことに完全な休みがある。『あなたは全き平安をもってこころざしの堅固なものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである』と主は言われる（イザヤ 26：3）。われわれの生活は混乱しているようにみえるかも知れない。しかし賢明な巨匠であられる神に自分自身をまかせる時、神はご自身の栄えとなる生活と品性の型をつくり出される。こうしてキリストの栄光すなわちキリストの品性をあらわす人は、神のパラタマスに受け入れられる。新しくされた人類は、白衣を着て神とともに歩むのである。彼らにその価値があるからである。」（各時代の希望中巻 52，53）

金曜日 *1月19日*

個人的な復習問題

1. **天からの光がわたしたちの心を照らしている時、わたしたちはどのような行動をすべきでしょうか。**
2. **わたしはどのような点でイスラエル人の罪を繰り返す危険にありますか。**
3. **神性にあずかることによる奇跡的な結果について延べなさい。**
4. **イエスがそれを求める人に喜んで与えようとしておられる安息を述べなさい。**
5. **キリストのくびきを受け入れることの恩恵を説明しなさい。**

神の安息

暗唱聖句：「なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。」(ヘブル 4:10)

「神は第七日目を祝福し、聖別された。なぜなら、このお方がその日にご自分のすばらしい創造のみわざを休まれたからである。安息日は人のために造られた。そして神はご自分が六日間の創造のみわざを休まれたように、人がその日に自分の働きをやめることを望んでおられる。」(教会への証 4 巻 247)

推奨文献：　各時代の希望上巻 360-373

日曜日　*1 月 21 日*

1.　真の聖なる休息

a.　ヘブル 4 章の中でパウロはどの休息について話しているのでしょうか(ヘブル 4:1)。

「休息はすべての自己義認、利己的な観点からのあらゆる論法を捨てたときに見いだされる。完全な自己の明け渡し、このお方の方法を受け入れることこそ、このお方の愛のうちに完全に憩う秘訣である。…このお方があなたにするようにお命じになったことだけをしなさい。そして神がすると仰せになったことはすべてなさることを確信していなさい。…あなたはこのお方のもとへ来て、あなたのあらゆる一時しのぎ、あらゆる不信、あらゆる自己義を捨てただろうか。ありのまま弱く無力で死ぬばかりのあなたのまま来なさい。

約束された『安息』とは何であろうか。それは神が真実であられ、ご自分に来るものを決して失望させないという意識である。このお方のゆるしは十分で無償であり、このお方の受け入れは魂にとって安息、すなわちこのお方の愛のうちの安息を意味する。」(わたしたちの高い召し 97)

b.　福音が一部の人々には期待通りの結果をもたらさらないのはなぜですか (ヘブル 4:2, 6; ローマ 9:30–32)。

「わたしたちは神のみ言葉を聞くことに信仰を混ぜ合わせないかぎり、すなわち自分の聞く真理を天からのメッセージとして注意深く、魂が食して霊的な命へと消化するために研究するのでないかぎり、神の御霊の印象を失う。わたしたちはみ言葉の神聖な確証を受けることによって休息を見出すというのが何を意味するかを経験によって理解していない。」(上を仰いで 75)

2.　　神の休息に入る

a.　いつわたしたちは神の神聖な休息を本当に楽しむことができますか（ヘブル 4:3（上句））。七日目の安息日とこの神聖な休息の間の関係性を述べなさい（ヘブル 4:4）。

「神は安息日に休息されたので『神はその第 7 日を祝福して、これを聖別された』――すなわちこの日を聖なるご用のためにとりわけられた（創世記 2：3）。神はこの日を休息の日としてアダムにお与えになった。それは創造のみわざの記念で、神の力と愛のしるしとなった。」（各時代の希望上巻 360）

「ユダヤ人に与えられた制度の中で彼らを周囲の国民から区別するのに安息日ほど役立ったものはなかった。神は、安息日を守ることが神の礼拝者である証拠となるように計画された。それは、彼らが偶像礼拝から離れ、真の神とつながっていることの証拠となるのであった。しかし安息日を聖とするためには、人は自ら聖でなければならない。信仰によって彼らはキリストの義にあずかる者とならねばならない。『安息日を覚えて、これを聖とせよ』との命令がイスラエルに与えられた時、主はまた彼らに、『あなたがたは、わたしに対して聖なる民とならなければならない』と言われた（出エジプト 20：8，22：31）。このようにしてのみ、安息日は、イスラエルを神の礼拝者として区別することができた。

ユダヤ人が神から離れ、信仰によってキリストの義を自分の義としなかった時、安息、日は彼らにとって、その意義が失われた。サタンは自分自身を高め、人々をキリストからひき離そうとつとめていた。そして彼は、安息日がキリストの力のしるしなので、これをゆがめるために働いた。ユダヤ人の指導者たちは、神の休みの日をやっかいな規則づくめにすることによって、サタンの意図を達成した。キリストの時代に、安息日はまったくゆがめられていたので、安息日を守る ことは、愛に富まれる天父のご品性よりはむしろ利己的でわがままな人間の品性を反映していた。ラビたちは、神が、人の守ることのできない律法をお与えになっていると事実上言っているのも同然だった。彼らは、人々に、神を暴君としてみさせ、神のご要求通りに安息日を守る時に、人は無情になり残酷になると考えさせた。このような誤った観念をとり去ることがキリストの働きであった。ラビたちは冷酷な敵意をいだいてキリストについてまわったが、キリストは彼らの規則に一致しようとする様子さえお見せにならないで、神の律法に従って安息日を守りながらまっすぐ進まれた。」（同上 364）

「安息日には、神に対する要求は、ほかの日よりも大きい。この日には、神の民は、いつもの仕事をやめて、瞑想と礼拝に時を過ごすのである。彼らは、安息日にはほかの日よりももっと多くの恵みを神に求める。彼らは神の特別な関心を要求する。彼らは神の最上の祝福を切望する。神は、安息日が過ぎるのを待たないで、こうした願いにお答えになる。」（同上 252）

3.　労働と休息

a.　約束された休息を得る前に、わたしたちはどのような労働をすべきでしょうか（ヘブル 4:9, 11）。

「［ヘブル 4：9，11 引用］ここで語られている休みは、勤勉に働きなさいとの命令に従うことによって得られる恵みの休みである。イエスの柔和と謙遜とを学ぶ人々は彼の教訓を実行し、経験するときに休みを見出す。休みは、怠惰や、自己安楽や快楽追求のために得られるものではない。忠実で熱心で愛情深い奉仕を主に捧げることをよしとしない者たちは、この世においても、来るべき世においても霊的な休みを見出さないであろう。熱心な働きからのみ、聖霊における平和と喜び一地上における幸福と来世の栄光が来る。

それだから働こうではないか。聞く人々のために力となり霊感となるみ言葉をしばしば語ろう。わたしたちは概して、お互いに無関心であり過ぎる。わたしたちの働き人仲間が希望と活力を与える言葉を必要としていることをしばしば忘れる。人が困っている時に、彼を訪ね、彼に慰めの言葉を語ろう。これが真の友情である。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 928）

b.　わたしたちが主の休息を見出すとき、わたしたち自身の行いには何が起こりますか（ヘブル 4:10; 出エジプト 20:10; イザヤ 58:13; ローマ 14:23 (下句)）。

「神は人をご自分のかたちに造られた。それから人にご自分が聖別され、聖なるものとされた第七日目の守り方の模範をお与えになった。このお方はその日に人がご自分に礼拝し、どんな世の中のことにも従事しないことを意図しておられた。安息日の要求に関して啓発された後に第四条を無視する人はだれも、神の御目に罪なしの判決を受けることはできない。」（教会への証 4 巻 247）

c.　安息日の休息と調和するのはどのような種類の働きでしょうか（イザヤ 58:6–8）。

「イエスは、苦しんでいる者を救う行為は、安息日の律法にかなっていると彼らにお述べになった。・・・

安息日に、苦しみをやわらげることをおこたる者は罪をまぬかれない。神の聖なる休みの日は、人のためにつくられたもので、憐れみの行為は、安息日の意図に完全に一致している。神は、ご自分の被造物が安息日でもほかの日でも、苦しみをやわらげられるものなら、1 時間でも苦しむことをお望みにならない。」（各時代の希望上巻 251，252）

4.　神のみ言葉の力

a.　神のみ言葉はどのぐらい力強いですか（詩篇 33:6, 9; ヘブル 4:12）。

「人間には限界があって、それ以上はどんなに努力してもむだである。わたしたちは、み言葉を宣べ伝えるのではあるが、魂を生きかえらせる力を与えることはできない。また、義を生じ賛美の声をあげさせることもできない。み言葉の宣教には、人力以上の力が働かなければならない。ただ神の霊によってのみ、み言葉は、生きた力を持つようになり、魂を造りかえて永遠の命に至らせる。キリストが弟子たちに印象づけようとなさったのは、このことであった。弟子たちの持っている力が、彼らの働きに成功をもたらすのではなくて、神の奇跡を行う力が、み言葉に力を与えることを、お教えになった。」（実物教訓 43，44）

b.　神の御前にわたしたちはどれほど深く知られていますか（ヘブル 4:13; 伝道の書 12:14）。

「自分の心を探り神の与えて下さったすべての才能を適用することは、すべての人の永遠の利益のためである。誰の心の中の動機でも神ははっきりとご覧になるということを覚えていよう。一人一人の動機は、この一つの結果に人間の運命がかかっているかのように注意深く検討される。明確な光と、原因から結果をどのように推し測るかという明確な知識と理解を増していけるようにわたしたちは神の力と結びつくことが必要である。神の性質にあずかることにより欲に染まった腐敗を逃れて分別力を養う必要がある。一人一人が厳粛な真理について熟考しよう。天の神は真実であり、どれほど複雑でも神にわからない企みはないし、どれほど注意深く隠されても神にわからない動機はない。神はすべて心の秘密の企てをお読みになる。人は神にはわからないと思って、将来のために不正直な行為を画策するかもしれない。しかし、書き物が開かれ、すべての人がその書に書かれたことに従って裁かれる大いなるその日に、それらの行為はあるがままに現れ出るであろう。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］3 巻 1160）

「神の御目はまどろむことはない。このお方は死すべき人間の目には隠されている一つ一つの罪をご存知である。有罪な者は、自分の魂が神のみ前に潔白となるために、どの罪を告白すべきかを知っている。イエスは今、彼らに告白するための機会、深い謙遜のうちに悔い改め、真理に従い生きることによって自分たちの生活をきよめるための機会を与えておられる。今は悪を正し、罪を告白するべき時である。さもなければそれらは神の怒りの日に罪人の前に現われることになる。」（教会への証 1 巻 156）

木曜日 *1月25日*

5.　必要な時のためのあわれみと恵み

a.　どなただけが御父の御前にわたしたちの仲保者となることがおできになりますか、それはなぜですか（ヘブル 2:17, 18; 4:14; 7:25; ヨハネ第一 2:1, 2）。

「キリストは今、祭司として、父とともにみ座についておられる。永遠の、自存なさるおかたとともに、『われわれの病を負い、われわれの悲しみをになった』かた、『罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われ』、『試練の中にある者たちを助けることができる』かたが、おられるのである。」（神の驚くべき恵み 69）

「あなたは〔イエスに〕のしかかったのと等しい重さでのしかかる困難にあっていない。またこのお方の心が経験された悲しみをもってはいない。このお方の気持ちは無視によって、友だと公言する者の無関心によって、あなたの気持ちと同様にたやすく傷つくことができるものであった。あなたの道はとげだらけであろうか。キリストの道は十倍もの意味でそうであった。あなたは悲嘆にくれているだろうか。このお方もそうであった。」（わたしたちの高い召し 59）

b.　わたしたちの必要な時に天の聖所で助けてくれる何をわたしたちは見出すことができますか（ヘブル 4:15, 16）。

「至聖所には、正義の規準である神の律法があって、全人類がそれによって審査されるのである。律法の板を入れた箱は、贖罪所で覆われていて、その前でキリストは、ご自分の血によって罪人のためにとりなしをなさる。こうして、人類の贖いの計画における、義といつくしみの結合が表されている。」（各時代の大争闘下巻 127）

「キリストは神の遺産を買い戻して、人間にもう一度機会を与えるために、ご自身の裂かれた体を提供された。・・・主のしみのない生活と従順そしてカルバリーの十字架上の死によって、キリストは失われた人類のためにとりなしをされた。そして今、わたしたちの救いの将は、単に嘆願者としてわたしたちのためにとりなしをされるだけではなく、勝利者としてご自分の勝利を宣言されている。主の供え物は完全である。そしてわたしたちの仲保者として、主ご自身のしみのない功績と、ご自分の民の祈りと告白、そして感謝を入れた香炉を神の前に持って主ご自身が定められた働きを遂行しておられる。主の義の香りで香しくされて、これらは麗しい香気として神に上っていく。このささげ物は完全に受け入れられ、許しはすべてのとがをおおうのである。」（彼を知るために 74）

金曜日 *1月26日*

個人的な復習問題

1.　神の休息に入ることが何を意味するかを述べなさい。
2.　七日目の安息日の神の休息には何が類を見ないほど特別なのでしょうか。
3.　主にあって休む時、わたしたちはどのように変わりますか。
4.　クリスチャン生活における神の御言葉の力強い深さを説明しなさい。
5.　なぜわたしたちは天におけるキリストのお働きに非常に感謝できるのでしょうか。

安息日 2024 年 2 月 3 日

第一安息日献金
世界災害救済のために

近年、私たちが何十年も研究してきた預言の成就が示されてきました。戦争、紛争、恐ろしい事故、パンデミックは、洪水、ハリケーン、地震、その他多くの悲劇に加えて、私たちの語彙の不可欠な部分となっている言葉です。 非常に多くの方法で、私たちは近づいてくる神の足音をはっきりと聞いてきました。 これらの悲しい出来事の結果、何百もの人々が極度の困難を経験し、最も単純な必要から最も深刻で費用のかかるものまで、あらゆるニーズを満たすために支援を必要としています。 このような状況において、世界総会福祉部は、世界中の私たちの同胞である皆さんから送られた寄付金を通じて、私たちの基金から得られた祝福を分かち合いました。 これらは、第一安息日の捧げ物を通じてだけでなく、必要を満たす個人的かつ具体的な方法で送られます。 親愛なる兄弟の皆さん、皆さんの捧げ物は、自然災害で家を失った人々の避難場所として役に立ちました。彼らは何百もの家族に食料を提供し、孤児と未亡人の世話をし、彼らに食料と援助を提供してきました。これらの提供物は、親が家族を養うために作物を植えるための種子を入手したり、小規模事業を始めたりするのにも役立ちました。 このようにして、私たちの信仰を持つ多くの人々は、それによって働き、他の方法では不可能な何らかの収入源を生み出すことができます。この試練の時代に、多くの人が感動して主の祭壇に寄付を捧げたことを神に感謝します。お世話になった方々を代表して、心より感謝申し上げます。

しかし、必要がなくなることはありません。それどころか、必要は日々増加しており、あなたの寛大さがすべてを変えます。

「キリストの十字架は祝福された救い主に従うすべての人の慈善心に訴える。そこで例証されている原則は、与えよ、与えよ、である。これは実際的な慈善と良い働きにおいて実行されるとき、クリスチャン生活の真の実である。」（管理職への勧告 14）

今日、あなたが第一安息日に特別な献金を捧げるとき、神のみ前に最善を置いてください。それが少なすぎるか多すぎるかは心配しないでください。それは問題ではありません。重要なのはあなたが最善をなすことです。そしてこの金額から愛を分かち、わたしたちは祝福を世界中の兄弟たちに配り続けるのです。「困窮している人に与える人は、他の人々を祝福する。そしてさらに大きな割合で自分自身が祝福されるのである。」（同上 13）神がみなさんを大いに祝福してくださいますように！　　世界総会福祉支部

キリスト：永遠の救いの創始者

暗唱聖句：「そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救の源となり」（ヘブル 5：9）

「わたしたちの救い全体はわたしたちの主なる救い主イエス・キリストの賜物を通して来るのである。わたしは何と喜ぶことであろう。それはわたしたちが疑うことができないような源から来るのである。そしてこのお方は『創始者』であられるが、それだけで終わるのであろうか。それだけで終わってしまうのであろうか。『信仰の導き手（創始者）であり、またその完成者』であられるのである（ヘブル 12:2）。神に感謝せよ。もしわたしたちがキリストの定められた方法のうちに、すなわちこのお方のご要求への従順を通して救われたいと望むなら、このお方はわたしたちの道中における一歩ごとにわたしたちに付き添ってくださるのである。」（この日を神と共に 72）

推奨文献：　各時代の大争闘下巻 221-226

日曜日　*1月28日*

1.　任命された大祭司

a.　旧約聖書の時代において大祭司の任務は何でしたか（ヘブル 5:1, 2）。

「大祭司は特別な方法で・・・キリストを表すように計画されていた。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］５巻 1100）

b.　キリストはどのような祭司職の地位と関係していますか、またこのお方の祭司職はわたしたちにとって何を意味していますか（ヘブル 5:5, 6, 10）。

「キリストは大祭司になることによって、ご自身を崇めさせることはなさらなかった。神はこのお方を祭司に任命された。このお方はすべての人類家族に対して、模範となられるのであった。このお方はすべての魂が天に友を持っているということができるように、ご自身を人類の代表者だけでなく、彼らの弁護者であるとみなされた。このお方はわたしたちの弱い気持ちに心を動かされる大祭司であられる。」（同上 930）

「贖われた民のために恵みの御座の前でとりなしておられる、わたしたちの偉大な大祭司を覚えよう。このお方は常に生きておられ、わたしたちのためにとりなしておられる。」（同上 948）

2. メルキゼデク

a. メルキゼデクはどのような方法でキリストを表していますか（創世記 14:18; ヘブル 7:1–4）。

「神は一度も地上に証人を置かれなかったことはない。かつてメルキゼデクは天の真理を明らかにし、神の律法を不朽にするために人となられた主イエス・キリストを代表していた。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］1巻 1092）

「いと高き神の祭司であったメルキゼデクを通して話されたのはキリストであった。メルキゼデクはキリストではなかった。しかし彼は世における神の声、天父の代表者であった。」（同上 1093）

b. なぜキリストは地上の祭司になられなかったのでしょうか（ヘブル 7:14–17）。

「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っているキリストは大祭司になることによって、ご自身を崇めさせることはなさらなかった。神はこのお方を祭司に任命された。このお方はすべての人類家族に対して、模範となられるのであった。このお方はすべての魂が天に友を持っているということができるように、ご自身を人類の代表者だけでなく、彼らの弁護者であるとみなされた。このお方はわたしたちの弱い気持ちに心を動かされる大祭司であられる。」（同上 930）

「神の御前で小羊がほふられたようにイエスはご自分が流された血をささげて職務を執り行っておられる。イエスは罪人のすべての過失、すべての欠点のためにささげられた供え物を差し出される。」（同上 1077）

c. キリストはわたしたちの憐れみ深い大祭司となるためにどのように備えられたでしょうか（ヘブル 5:7, 8）。

「都市が沈黙のうちに静まり、弟子たちが自分の家に帰って睡眠のうちに元気を回復している間、イエスはお眠りにならなかった。このお方の神聖な嘆願がオリブ山から御父のもとへのぼっていた。それはご自分の弟子たちがこの世で日々遭遇することになる悪の感化力から守られるように、そしてご自身の魂が来たるべき日の義務と試練のために強められ、準備できるようにと嘆願された。一晩中、ご自分に従う人々が眠っている間に神聖な教師は祈っておられた。祈りのうちに垂れたこのお方の頭に露と霜がおりた。このお方の模範が、従う人々に残されている。」（教会への証 2 巻 508）

「キリスト、わたしたちの救いの将は苦難を通してまっとうされた。このお方に従う人々は数多く敵に遭遇するであろう。そして厳しく試されるであろう。しかし、彼らは絶望する必要はない。キリストは彼らに言われた、『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている』（同上 8 巻 212）

3.　　従うために救われる

a.　不従順を選んだとしたら、わたしたちは救われるでしょうか、説明しなさい（マタイ 1:21; ヘブル 5:9）。

「ここにすべての魂が永遠の命のために選ばれる条件がある。神の戒めに対するあなたの従順は、あなたが光のうちに聖徒たちと共に嗣業をつぐ権利があることを証明する。神は品性のしかるべき卓越性を選んでこられた。そしてキリストの恵みを通してこのお方のご要求の標準に達する人はみな、栄光の御国に十分に入るのである。この品性の標準に達する人はみな、神がこの目的のために備えてこられた手段を用いる。もしあなたが神の子らのために残されている安息を受け継ぎたいのであれば、あなたは神と働く共労者とならなければならない。あなたはキリストのくびきを負うために選ばれている。このお方の重荷を負う、すなわちこのお方の十字架を掲げるために選ばれている。あなたは『召しと選びとを確かなものとする』ために勤勉にならなければならない。聖書を調べなさい。そうすればあなたはアダムのむすこもしくは娘で神の律法への不従順のうちに選ばれた者は一人もいないことがわかるであろう。世界は神の律法を無効にしている。しかし、クリスチャンは真理への従順を通して聖化へと選ばれている。彼らはもし冠をかぶりたければ、十字架を負うように選ばれているのである。」（クリスチャン教育の基礎 125）

b.　ペテロはサンヒドリンの議会の前でどのような証をしましたか、またこの経験はわたしたちに何を教えていますか（使徒行伝 5:29–32）。

「わたしたちは何が人のやり方なのかとか、何が世の習慣なのかなどと問うべきではない。わたしたちは、人に認められるために自分はどう行動すべきかとか、世が許容するのは何か、などと問うべきではない。すべての魂にとって強い関心をもってなすべき問いは、神は何と言われているか、である。わたしたちは、神の言葉を読んでそれに従い、その要求から一点一画もそれることなく、人間の伝統や権力に関係なく行動しなければならない。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］6 巻 1056）

「神の言葉を学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。また、聖霊が降下して、罪を指摘する。すると、心の中に生じた信仰は、キリストに対する愛によって活動しはじめ、体も心も魂も、すべてをキリストのかたちに一致させるのである。こうして神は、み心を行うためにわたしたちをお用いになるのである。与えられた力は、内から外へと作用して、わたしたちに伝えられた真理を他に伝えさせるのである。」（キリストの実物教訓 74）

4.　　完成へと進む

a.　多くの信者だと公言する人々の悲しむべき状態を述べなさい（ヘブル 5:11–13）。

「パウロはユダヤ人の回心者に対して、神の奥義について彼が望むように率直に話すことができなかった。彼は彼らがもし知的な理解をもって誤りなく聞くことができたら、彼らにとって命から命に至る香りとなったであろう真理を彼らの霊的弱さ、霊的知覚の欠落の故に口にすることができなかった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］6 巻 1085）

「パウロは、コリントで過ごした 1 年半のあいだ、つとめて福音を単純に説いてきた。・・・

パウロは当然のことだが、教会の状態に応じて教える方法を考えた。『兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない』と、パウロは後になって彼らに説明した（コリント第一 3：1，2）。パウロが彼らに教えようと努力していた教えを学ぶのに、コリントの多くの信者たちは時間がかかった。彼らの霊的知識の発達は、彼らが受けた特権や機会と釣り合っていなかった。彼らがクリスチャン経験をかなり積んで、みことばのより深い真理を理解し、実行していなければならないときに、彼らは、『わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今はそれに堪えられない』とキリストが弟子たちに言われたときの弟子たちの場所に立っていた（ヨハネ 16：12）。嫉妬や邪悪な憶測や非難が、コリントの多くの信徒たちの心を閉ざしていて、『すべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめる』聖霊の十分な働きを妨げていた（コリント第一 2：10）。彼らはこの世的な知識においてどんなに賢くとも、キリストを知る知識においては幼児にすぎなかった。」（患難から栄光へ上巻 291，292）

b.　わたしたちはどのようにしてクリスチャンの完全を達成することができるのでしょうか、またそれをなすすべての者にどのような祝福が待っていますか（ヘブル 5:14; 6:1（上句）; ヨハネ第一 3:18; ホセア 6:3）。

「教会はあらゆる妬み、邪推、悪口を捨て去らないかぎり、後の雨を全体として受けることはない。心の中に憎しみをいだいて、ついにそれが強められて自分たちの品性の一部となる人々は、もし後の雨にあずかりたければ、異なる経験を持たなければならない。」（家庭伝道、1896 年 8 月 1 日）

「すべての妬み、悪い憶測、邪悪な発言を取り除かない限り教会全体が後の雨を受けることは決してない。

木曜日 *2月1日*

5.　　キリストに似た者となる

a.　神の子らに対するこのお方の目的について説明しなさい（ピリピ 3:12–16; 黙示録 3:18–21）。

「神がその子らにお望みになる理想は、人間の考えのおよばないほど高いものである。神のようになること、すなわち神のみかたちに似ることが、到達しなければならないゴールである。」（教育 8）

「『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい』（マタイ 5：48）。この命令は約束である。あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪から引き離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。」（各時代の希望中巻 20）

「まことの証人はキリストのみ名によって、信仰を通して謙遜、従順の道を歩みたいと願っているすべての人を激励しておられる。彼は『勝利を得る者は、わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど、わたしが勝利を得て、わたしの父と共にその御座についたのと同様である』と言われる。

これらはわたしたちの身代わり、保証人の言葉である。教会の神聖なかしらであり、最も偉大な勝利者であられるこのお方に従う者たちに勝利者に与えられる賞与を目指して前進するように励ますため、このお方の生涯、このお方の労苦、このお方の克己、このお方の戦い、恥辱による苦しみ、拒絶による嘲り、軽蔑、侮辱、嘲笑、虚偽など十字架の光景に至るまでのカルバリーの道を示したいと望んでおられる。勝利は信仰と服従を通して保証されている。

キリストのみ言葉をわたしたち自身の個人的な問題に適用しよう。わたしたちは貧しく、盲目であわれむべき、みじめな者であろうか。そうであれば、キリストが提供しておられる金や白い衣を求めよう。勝利する働きは殉教者の時代に限られていない。世俗愛、自己安全、高慢にふけること、貪欲、偽りの教え、不道徳な歩みなどへ導く巧妙な誘惑に関する戦いが、今日におけるわたしたちの戦いなのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 966）

金曜日 *2月2日*

個人的な復習問題

1. **神はキリストを大祭司の他にどのような地位に任命されましたか。**
2. **メルキゼデクの祭司職について何が意義深いのでしょうか。**
3. **神の御言葉への従順は御霊を受けることとどのように関係しているのでしょうか。**
4. **後の雨を受けるために必要な条件をいくつか挙げなさい。**
5. **わたしたちに対する神の御目的とそれがどのように達成されるかについてわたしたちは何を悟らなければなりませんか。**

理解において成長する

暗唱聖句：「わたしたちの主また救主イエス・キリストの恵みと知識とにおいて、ますます豊かになりなさい。」（ペテロ第二 3：18）

「わたしたちが神の祝福を感謝するとき、わたしたちはこのお方の恵みをもっと多く受けることができる。わたしたちが見えないお方を見ているように忍ぶことにより、わたしたちはキリストのかたちに変えられる。・・・

恵みの内での成長はあなたを得意に、自信のある、自慢する者ではなく、あなた自身が無であること、あなたがまったく主に依存していることをますます気づかせる。」（神の驚くべき恵み 296）

推奨文献：　各時代の希望中巻 37 － 46

日曜日　*2月4日*

1.　常に成長する

a.　イエスの幼年期についてどのように書かれていますか（ルカ 2:40）。

「天の王君、栄光の王なるキリストはベツレヘムに生まれ、しばらくの間は、母親に世話される無力な赤ん坊の一人となられた。イエスは子供の頃は子供のように話し、また行動され、また両親を敬い、両親の希望を実行して彼らを助けられた。しかし知性が目覚めてからは、恩恵と知識の中に成長を続けられた。」（教育 113）

b.　イエスのいとこであるヨハネの子供の頃はどうでしたか（ルカ 1:80）。 実際にご自分の子らに対する神のご計画は何でしょうか（テサロニケ第一 5:23, 24）。

「聖化、どれほど多くの人が聖化の意味を十分に理解しているであろうか。心は肉欲というマラリヤ熱で迷わされている。思いは清められなければならない。すべての身体的な取り扱いが、知性や感情の活力と純潔に関係があるということを知っていたら、男も女もそのような状態にはならなかったであろう。

真のクリスチャンは聖潔をもたらす経験を持っている。彼は良心に罪責のしみがなく、魂に腐敗も汚れもない者である。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 909）

2. 聖霊に対する罪

a. かつては天からの光を享受したが、その後それを拒んだ人々の恐ろしい状態は何ですか（ヘブル 6:4–6）。

b. イエスはご自分を拒んだユダヤ人に対してどのような深刻な警告をお与えになりましたか（マタイ 12:31, 32）。

「だれも聖霊に対する罪を何か神秘的で説明できないことのようにみなす必要はない。聖霊に対する罪とは、悔い改めへの導きに応じることを頑固に拒絶する罪である。

キリストへの魂の屈服を通してでなければ、より高い生活への希望……はない。」（信仰によってわたしは生きる 58）

「キリストの神性を知らないでイエスご自身のことを悪く言った者はゆるされるかも知れない。なぜなら、聖霊によって、彼らは自分のあやまちを認めて悔い改めにみちびかれるかもしれないからである。罪がどんなものであろうと、もし魂が悔い改めて信ずるなら、その不義はキリストの血によって洗われる。だが聖霊の働きをこばむ者は、悔い改めと信仰のとどかないところにわが身をおいているのである。神が心に働かれるのは、みたまによってである。人が故意にみたまをこばみ、それをサタンから出たものであると断言する時、彼らは神が彼らと交わることのおできになる道を自らとざすのである。みたまが最後までこばまれる時、神はもうそれ以上魂のためにつくすことがおできにならない。」（各時代の希望中巻 38）

c. わたしたちの言葉はわたしたちの品性にどのような影響を与えますか（マタイ 12:36）。

「聖霊に対する罪についてのキリストの警告と密接な関係があるのは、むなしいことばや悪いことばに対する警告である。ことばは心のうちにあるものを示す。『おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである』（マタイ 12：34）。しかしことばは、品性をあらわすだけではない。ことばは品性に作用する力を持っている。人は自分自身のことばに影響される。・・・一度意見や決心を口に出してしまうと、面目にこだわってそれをひっこめることができないことが多く、あくまで自分が正しいことを証明しようとし、ついには自分が正しいのだと信ずるようになる。疑いのことばを口に出すことは危険である。すなわち天来の光を疑ったり批判したりすることは危険である。不注意で不敬な批判をする習慣は品性に作用し、不敬と不信の念を助長する。この習慣をほしいままにしていた多くの人々が、危険を意識しないで続けているうちに、ついには聖霊の働きを批判したりこばんだりするようになった。」（同上 40）

3. 神はわたしたちの無我の働きを愛される

a. 隣人のためのわたしたちの活動を神がどのようにご覧になっておられるかをパウロはどのように書きましたか（ヘブル 6:10）。

「わたしたちの霊的な力と祝福は、わたしたちがする愛の働きと善行に比例する。使徒は『互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう』と訓戒している（ガラテヤ 6:2）。神の律法を守るということは、善行と自己否定、また自己犠牲と他人の善のために献身することをわたしたちに求める。わたしたちの善行だけが、わたしたちを救うのではない。けれども、善行なしには、救われないのである。わたしたちがなし得るすべてのことをなした後で、わたしたちはなすべき自分の義務を果たしただけで神の行為を受ける価値もない、ふつつかな僕です、と言うべきなのである。……キリストがわたしたちの義でなければならない。

わたしたちの周りにいるすべての者は、飢えた魂を持ち、言葉と行いに表される愛を切望している者たちである。親切な同情や他人に対する本当のやさしい思いやりの気持ちは、わたしたちが、今まで経験したこともない祝福をわたしたちに及ぼす。そして、わたしたちを救い主との親密な関係に導く。救い主がこの世においでになったのは、よい行いをなされるためであった。その方の生涯をわたしたちの手本とすべきである。わたしたちは、キリストのために何をしているであろうか。」（彼を知るために 334）

b. たとえわたしたちが自分の行いによって救われるのではなかったとしても、それらはわたしたちのクリスチャンとしての歩みにおいてどれほど重要なのでしょうか（テトス 2:13, 14; 3:8）。

「本物の信仰は常に愛によって働く。あなたがカルバリーを見るとき、それはあなたの魂を、義務を実行しないまま沈黙させたり、眠るために静めたりするためではなく、むしろイエスを信じる信仰、すなわち働いて、利己心というヘドロから魂をきよめる信仰を創造するためである。わたしたちがキリストを信仰によってつかむとき、わたしたちの働きは始まったばかりである。すべての人には断固たる戦いによって勝利しなければならない堕落した罪深い習慣がある。すべての魂は信仰の戦いを戦うことが要求されている。もしある人がキリストに従う者であれば、彼は取引において抜け目なくなったり、心がかたくなになったり、同情に欠けていたりすることはできない。彼は言葉において荒々しくなることはできない。うぬぼれや自己評価でいっぱいになることはできない。彼は威圧的になることも、激しい言葉を用いることも、非難したり、とがめたりすることはできない。…わたしたちは良い働きに熱心になるべきであり、良い働きを維持するように注意しなければならない。そしてまことの証人は次のように言われる、『わたしはあなたのわざを知っている』（黙示録 2:2）。」（セレクテッド・メッセージ 2 巻 20）

4. クリスチャンの希望の確かさ

a. 神の御約束の保証に関してわたしたちは何を学ぶことができますか（ヘブル 6:13–15）。

b. 神はご自分の御約束についてなんと宣言しておられますか（ヘブル 6:16–18）。

「神はご自分のしもべたちが試練に遭った時に必要な力を、豊かに彼らに与えることがおできになる。そしてそうしようと望んでおられるのである。神の働きに対する敵の策略は、よく計画され確立しているように見えるであろう。しかし神は、これらの計画の最も強力なものでも、覆すことがおできである。そして神はしもべたちの信仰が十分に試めされたことをごらんになる時に、神ご自身の時と方法においてこれをなさるのである。」（国と指導者上巻 133）

c. わたしたちの魂の錨はどこにありますか（ヘブル 6:19, 20）。

「わたしたちの信仰は、覆われているものを見通し、見えないものを見なければならない。誰一人あなたにかわってあなたのために物事を見ることはできない。あなたは自分で見なければならない。まだ与えられていない祝福を求めてつぶやかず、すでに与えられている祝福を思い出し、感謝しよう。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 930）

「わたしたちはいかなる人間の、たとえ学者の意見であっても、もし偉大な教師の言葉と調和するものでないならば受け入れることは安全ではない。誤りを犯しやすい人間の意見がわたしたちの前に受け入れやすく提示される。しかし神のみ言葉がわたしたちの権威であり、神のみ言葉の教えに一致する最も決定的な確証がないならば、人間の教えを決して受け入れてはいけない。わたしたちは永遠の真理―生ける神のみ言葉というよりどころの上に立っているのを確かに知っていることを知るべきである。

真理、神のみ言葉からの尊い真理は公衆と多くの家庭に啓示されるべきである。わたしたちは最後の時代の危機に立つ人を備えさせる使命を持っている。……真理は襲ってくるすべての試みに耐える。サタンの詭弁に打ち負かされることはない。真理は攻撃されればそれだけ輝きを増す。敵の積極的で熱心な働きのしるしを見る時、わたしたちは真理を、はっきり決定的に与える努力をしようと決心しないでいられようか。わたしたちは神の力と御霊の前にあって、偉大な教師からの教えを受けたり分け与えたりしないでおれようか。……『主よ、あなたはわが神、わたしはあなたをあがめ、み名をほめたたえる。あなたはさきに驚くべきみわざを行い、いにしえから定めた計画を真実をもって行われたから』（イザヤ 25:1）。……わたしたちはイスラエルの神、主のみ言葉に錨をおろそうではないか。」（彼を知るために 210）

木曜日 *2月8日*

5.　　キリストの象徴としての祭司職

a.　この地上の聖所のために神によって選ばれたのはどの家族でしたか、それはなぜですか（出エジプト 28:1, 2; 32:7, 8, 25, 26）。

「神の指示により、レビ人が聖所の奉仕のために選ばれた。ずっと初期のころには、すべての男子が自分の家族の祭司であった。アブラハムの時代には、祭司職は長男の生まれながらの権利とみなされていた。しかし、主はここで聖所の務めのために、全イスラエルの長子の代わりに、レビ族をお受け入れになった。神は、この特別の栄誉を与えることによって、彼らが忠実に主に仕えたことと、イスラエルが金の小牛を拝んで背信した時に、主のさばきを忠実に果たした彼らの忠誠を認めたことをあらわされた。しかし、祭司職は、アロンの家だけにかぎられていた。アロンとその子らだけが主の前で仕えることをゆるされた。レビ族のその他の者たちには幕屋とその備品に関する責任がゆだねられた。そして、彼らは奉仕にたずさわる祭司に付き添うことはできたが、いけにえを捧げたり、香をたいたり、おおいをかぶせていない清い備品を見たりすることは許されなかった。」（人類のあけぼの上巻 412）

b.　なぜこの計画はキリストを示す別の祭司職によって置き換えられたのでしょうか（ヘブル 7:11, 15–17, 21–23）。

c.　地上の祭司職とキリストの祭司職を対比し、キリストの祭司職がわたしたちの救いにとってどれほど効果的であるかを説明しなさい（ヘブル 7:25–28）。

「キリストは、わたしたちのためにとりなしをするためにいつも生きておられるがゆえに、最高にまで救うことがおできになる。人間が自分自身の救いに向けてできるすべてのことは、次の招きを受け入れることである、『命の水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい』（黙示録 22:17）。人が犯す可能性のある罪で何一つ、カルバリーが要求を満たすことのできないものはない。（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 343）

金曜日 *2月9日*

個人的な復習問題

1. **イエスとバプテスマのヨハネの教育はどのようにわたしたちにとって刺激となるのでしょうか。**
2. **聖霊に対する罪へ陥る過程を説明しなさい。**
3. **本物の良い行いはどのようにして動機づけられるのでしょうか。**
4. **神の約束が真実であるという証拠をわたしのこれまでの人生の中で見てきましたか。**
5. **救いを求める時、なぜわたしたちにとってキリストの祭司職が重要なのでしょうか。**

二つの契約

暗唱聖句：「神は、『新しい』と言われたことによって、初めの契約を古いとされたのである。年を経て古びたものは、やがて消えていく。」（ヘブル 8：13）

「聖書には、永遠に不変の律法と、仮の一時的な律法の 2 つの律法が示されているのと同様に、契約にも 2 種類ある。」（人類のあけぼの上巻 439）

推奨文献：　人類のあけぼの上巻 430-444

日曜日　*2 月 11 日*

1.　神の永遠の律法

a.　契約の箱の中の主な物は何でしたか、そしてそれは何を意味していましたか（出エジプト 25:16; 26:33, 34; 31:18; 詩篇 85:10）。

「箱におさめられた神の律法は、義と審判の大原則であった。この律法は違反者に死を宣告した。だが、律法の上には贖罪所があり、そこに神の臨在があらわされ、また、そこから、贖罪によって、悔い改めた罪人にゆるしが与えられた。」（人類のあけぼの上巻 411）

「アダムとエバは、創造の当初、神の律法のことを知っていた。彼らは、律法の要求を知っていた。戒めは彼らの心に書かれていた。人間が罪を犯して堕落したときに、律法は変更されなかった。しかし、彼らを再び服従に立ち帰らせるために救済策が設けられた。救い主の約束が与えられ、大いなる罪祭、キリストの死を予表した捧げ物の犠牲制度が設けられた。」（同上 430）

b.　キリストは神の律法の権威について何と言われましたか（マタイ 5:17–19）。

「多くの人は、キリストが律法を廃するために来られたのだと思っているが、イエスはまちがう余地のない言葉で、神の律法への態度を明らかにしておられる。『わたしが律法や預言者を廃するために来た、と思ってはならない』とイエスは言われた。」（祝福の山 59）

2.　　真の幸福

a.　従順は幸福とどのように関係していますか（詩篇 1:1, 2; 箴言 6:23; 13:13）。

「律法を廃することが自分の意図なのではないと宣言なさったお方は、人間を創造し、かつ律法をお与えになったお方である。日の光に漂うほこりから天上の諸世界に至るまで、自然界のものはすべておきてのもとにある。そして自然界の秩序と調和は、これらのおきてに従うことにかかっているのである。それと同じく、すべての知的存在の生命を支配する偉大な義の原則があって、宇宙の安寧は、これらの原則に一致するか否かにかかっている。地球が創造される以前から、神の律法はあった。天使も、これらの原則によって治められている。そして、地が天と調和するためには、人もまた、天のおきてに従わなければならない。『明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった』時に、キリストは律法をお与えになった（ヨブ 38：7）。地上におけるキリストの使命は、律法を廃することではなく、その恵みによって人類を再びその律法に従わせることであった。」（祝福の山 60）

b.　わたしたちが罪を犯して後、わたしたち自身の力で神の十戒の道徳律に従うことができますか、なぜですか、またはなぜできないのでしょうか（ローマ 8:3, 4）。

「使徒パウロは、新しい契約のもとにおける信仰と律法の関係を明らかに述べている。『このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている』『すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである』『律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を』―人間は罪深い性質を持っているから、律法を守ることができない。だから律法は、人間を義とすることはできない―『神は・・・御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである』（ローマ 5:1, 3：31，8：3，4）。」（人類のあけぼの上巻 443）

「罪に陥る前、アダムは神のおきてに服従することによって、正しい品性をつくり上げることができたが、彼はこれに失敗し、彼の罪のために、わたしたちは生まれながら罪あるものとなり、自分の力で義となることはできなくなった。わたしたちは罪深く汚れているので、清いおきてに完全に従うことができない。神のおきての要求に応じるほどの義を持ち合わせていない。」（キリストへの道 81，82）

「わたしたちはサタンのつかんでいる手から自らを救出するのに全く無力である。しかし、神は逃れの道を備えて下さった。いと高き御子にはわたしたちのための戦いを戦う力がある。そして『わたしたちを愛して下さったお方を通して』わたしたちは『勝ち得て余りがある』。」（教会への証 5 巻 740）

3. 新しい契約の下での完全な従順

a. わたしたちはどのように神の律法へ完全な従順を示すことができますか（ローマ 3:31; 1:16, 17）。

「とこしえの命を受ける条件は、わたしたちの祖先が罪に陥る前、すなわちパラタマスにいたときと全く同じであって、それは神のおきてに完全に服従すること、つまり完全に義であることである。もし、とこしえの命がこの条件以下で与えられるものであるとすれば、全宇宙の幸福は危険にさらされ、罪の道が開けてあらゆる災いと悲惨とが永久に絶えないことであろう。・・・

けれどもキリストは、わたしたちのために逃れる道を備えてくださった。キリストは、この地上でわたしたちがあわねばならない試練と誘惑の真っただ中で生活し、罪なき生涯をお送りになりました。そして、わたしたちのために死に、今やわたしたちの罪を取り除いて、自己の義を与えようとしておられる。もし自分をキリストにささげ、キリストを自分の救い主として受け入れるならば、その生涯はこれまでいかに罪深いものであっても、彼のゆえに義とみなされるのである。キリストの品性があなたの品性の代わりとなり、神の前に全く罪を犯したことのない者として受け入れられるのである。

これればかりでなく、キリストはわたしたちの心までも変えてくださる。信仰によって、キリストは心のうちに住まれる。こうして、信仰と、たえずキリストに自らの意志を従わせることによって、キリストとの関係を持続するのである。このようにするかぎり、キリストはあなたのうちに働いて、み旨に従って志をたて、行うことができるようにしてくださる。そのときこそ『わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神のみ子を信じる信仰によって、生きているのである』（ガラテヤ 2：20）と言うことができるのである。ですから、キリストも弟子たちに、『語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の霊である』（マタイ 10：20）と言われた。こうしてキリストがわたしたちのうちにお働きになるならば、わたしたちは、キリストと同じ精神をあらわし、同じ業正しい行為、つまり服従をするようになるのである。」（キリストへの道 81-83）

b. 新しい契約の下での神の保証は何ですか（ヘブル 8:10; エレミヤ 31:33, 34）。

「キリスト教が世に果たすよう計画されている働きは、神の律法の価値を下げたり、わずかといえどもその聖なる威厳を減ずるものではなく、思いと心にその律法を書き記すことである。神の律法が信者の魂に、このように植えつけられる時、人はイエスの功績を通して永遠の命に近づいている。」（神の息子娘たち 50）

「『新しい契約』は、『さらにまさった約束』によるもので、罪の赦しの約束と、心を新たにする神の恵みと、神の律法の原則に心を一致させる約束によるのである。」（人類のあけぼの上巻 442）

4.　心にある神の律法

a.　神の律法はいつ信者の心に書かれるのでしょうか（ローマ 5:1–5）。

「石の板に刻まれたのと同じ律法が、聖霊によって心の板に書かれるのである。自分自身の義を確立させようと努力するかわりに、われわれは、キリストの義を受け入れる。キリストの血がわれわれの罪を贖うのである。キリストの服従が、われわれに代わって受け入れられる。こうして、聖霊によって新しくされた心は、『御霊の実』を結ぶのである。キリストの恵みによって、われわれは心に書かれた神の律法に従って生きるのである。キリストのみ霊を持っているから、彼が歩かれたように歩くのである。彼は預言者によって、ご自分のことを言われた。『わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわ たしの心のうちにあります』（詩篇 40：8）。そして、彼がこの地上におられたときには、『わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない』と言われた（ヨハネ 8：29）。」（人類のあけぼの上巻 442，443）

b.　新しい契約の下で、どのような素晴らしい約束がわたしたちに与えられているでしょうか（ヘブル 8:11, 12）。

「流れが清くなるには、心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国に入ろうとする者は不可能なことを試みているのである。律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生れ変わることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによってのみ行われる。」（各時代の希望上巻 201，202）

「新しい契約の祝福はまったく不義と罪を許す憐みに基礎が置かれている。主は悪を捨て、ご自分に帰ってくる者にこのようにすると仰せられる。『わたしは、彼らの不義をあわれみ、もはや、彼らの罪を思い出すことはしない」と（ ヘブル 8:12）。その心を謙遜にし、自分の罪を告白するすべての者は、あわれみと恵みと保証を見出すであろう。神は罪人にあわれみを示すことによって、義であることをやめられたのであろうか。神はご自分の聖なる律法を尊んでこられず、今後その違反を見逃されるのであろうか。神は真実であり、変わることがない。救いの条件は永久に同じである。命、永遠の命は神の律法に従う者に対して与えられる。思いと、言葉と行為に現れる完全な従順は、かつて律法学者が『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか』とキリストに尋ねた時、イエスが『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどう読むか……そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる』と答えられたように（ ルカ 10:25-28）、今日もそれは本質的な事である。』（彼を知るために 299）

木曜日 *2月15日*

5.　　神の戒めを守る民

a.　第三天使のメッセージには神の民について何と書かれていますか（黙示録 12:17; 14:12）。

「新しい契約の下においても、永遠の命が得られる条件は古い契約と同じように―完全な服従である。古い契約のもとにあっては、律法が要求する贖罪の働きが及ばない故意の性質の違反が数多く存在した。新しい、より良い契約においては、もし律法の違反者が信仰によって主を個人的救い主として受け入れるならば、キリストは彼らのために律法を満たされる。……あわれみと許しは、彼らの罪を取り除かれる主の功績により頼んでキリストに来るすべての者に報いとして与えられる。より良い契約において、わたしたちはキリストの血によって罪から清められる。……罪人は自分では一つの罪をも贖うことはできない。キリストの無償の賜物の中に力がある。この無償の賜物は、自分の罪に気づき、その罪を捨てて、自分の無力な魂を、罪を許される救い主であるイエスにゆだねる者によってのみ正しく評価される。み約束である主は、『聖であって、正しく、かつ善』であるご自分の完全な律法、神ご自身の本質である律法を彼らの心に置かれる（ローマ 7:12）。」（彼を知るために 299）

b.　新しい契約の約束に基づいて、この終わりの時に本当に神の民の一部となるのは誰でしょうか（ヘブル 8:10; イザヤ 51:7, 8）。

「真理を受け入れ、それを伝えるにあたっての大きな障害は、そこに不都合と恥辱が含まれていることである。これは、真理の擁護者たちが反論できなかった唯一の真理反対論である。しかし、このことも、キリストの真の弟子たちを思いとどまらせはしない。彼らは、真理の受けがよくなるまで待ったりなどしない。彼らは、自分たちの義務を確信して、進んで十字架を負［う］。…

われわれは、正しいことを、それが正しいことであるがゆえに選び、結果は神にゆだねなければならない。世界の大改革は、原則と信仰と勇気の人々によって行われたのである。そのような人々によって、この時代の改革も推進されなければならない。」（各時代の大争闘下巻 185）

金曜日 *2月16日*

個人的な復習問題

1. **なぜ十戒は至聖所の契約の箱の中に置かれたのでしょうか。**
2. **人生における幸福を大いに増進する習慣とは何でしょうか。**
3. **そのような習慣を培い、身に着けるための唯一できるのはどのようなことでしょうか。**
4. **わたしたちに代わって神の創造の力がもたらした最も偉大な奇跡について述べなさい。**
5. **新しい契約の経験は、神の民の最後の残りの者をどのように区別しますか。**

古い契約

暗唱聖句：「もし初めの契約に欠けたところがなかったなら、あとのものが立てられる余地はなかったであろう。」（ヘブル 8：7）

「『古い契約』の条件は、従って生きよということであった。『人がこれを行うことによって生きるものである』。しかし、『この律法の言葉を守り行わない者はのろわれる』（エゼキエル 20：11，レビ 18：5 参照，申命記 27：26）。」（人類のあけぼの上巻 442）

推奨文献：　神の驚くべき恵み 135
各時代の希望下巻 163-167

日曜日　*2 月 18 日*

1.　記念的な契約

a.　いつ、そしてどこで古い契約は制定されましたか（出エジプト 19:1, 2）。

「シナイに宿営するとまもなく、モーセは神に会うために山へ召された。彼はただ 1 人でけわしい道を登って行って、主の臨在の場所を示す雲に近づいた。イスラエルは、いま神との親密な、特殊な関係に入れられるのであった。すなわち、彼らは、神の統治下にある一つの教会、一つの国民として統合されるのであった。」（人類のあけぼの上巻 352）

b.　シナイにおける契約の条件は何でしたか、またなぜこの原則が重要なのですか（出エジプト 19:3–6）。民はどのように答えましたか（出エジプト 19:8）。

「従順こそ、大いに恩寵を受けた神の民とするという約束の成就を、昔のイスラエルが受けるための唯一の条件であった。そして律法への従順はヘブル人にもたらされたのと同じように、個人にも国家にも大いなる祝福としてもたらされるのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 218）

「モーセは宿営にもどって、イスラエルの長老たちを呼び集め、神の言葉を彼らにくりかえした。彼らは、『われわれは主が言われたことを、みな行います』と答えた。こうして彼らは、神と厳粛な契約を結び、神を彼らの統治者として受け入れることを誓い、これによって、彼らは特別な意味で、神の権威の下にある民となった。」（人類のあけぼの上巻 352）

2.　　知識のない熱心さ

a.　イスラエル人は神の律法に従うと約束した時、彼らは何に信頼を置きましたか（ローマ 10:1–3）。

「人々は、自分たちの心の罪深さと、キリストの助けがなくては神の律法を守ることができないことを自覚しなかった。そして、彼らは直ちに神と契約を結んでしまった。彼らは、自分たちの義を確立することができると感じて、『わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います』と宣言した（出エジプト 24：7）。」（人類のあけぼの上巻 441，442）

b.　キリストの時代にユダヤ人が同じ過ちを犯したのはいつでしたか（マタイ 5:20; ローマ 9:31, 32）。

「律法は聖なるものであるが、ユダヤ人は、律法を守ろうとする自己の努力によっては、義に到達することができなかった。キリストの弟子たちは、天のみ国に入りたければ、パリサイ人の義とは異なった義を獲得しなければならない。神はみ子をお与えになることによって、律法の完全な義を彼らに提供なさった。もし彼らが心を十分に開いて、キリストを心に受けいれるなら、神の生命そのもの、神の愛が彼らのうちに宿って、彼らを神ご自身のみかたちに変えるのである。こうして彼らは、報いを求めない神の賜物によって、律法の要求する義を所有するのである。しかしパリサイ人は、『神の義を知らないで、自分の義を立てようと努め』てキリストを拒否した（ローマ 10：3）、彼らは神の義を受け入れようとしなかった。」（祝福の山 68）

c.　わたしたち自身の義について何と書かれていますか（イザヤ 64:6）。

「［イザヤ 64：6 引用］わたしたちが自分でなし得ることは、罪で汚れている。しかし神のみ子は『罪をとり除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない』。」（キリストの実物教訓 291）

「聖霊が人の心に働かない限り、わたしたちは一歩ごとにつまずき、倒れる。人の努力だけでは無価値である。しかしキリストとの協力は勝利を意味する。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 381）

「ひとたびキリストの光が心の中にさしこむとき、自分たちがどんなに汚れているかがわかるのである。また何をするにも自分の利益ばかり考え、神に逆らい、日常のあらゆる行動が汚れていた ことを悟るのである。そして、わたしたちの義は汚れた衣のようであって、キリストの血のみが罪の汚れより清め、彼のみ姿にかたどって、わたしたちの心を新たにすることを知るのである。」（キリストへの道 32）

3. 古い契約の目的

a. 救いのためには恵みの契約で十分であったのに、なぜシナイで別の契約が結ばれたのでしょうか（ガラテヤ 3:19; 詩篇 119:18; 黙示録 3:17, 18）。

「もし、アブラハムに与えられた契約が、贖罪の約束を含んだものであったならば、なぜ、シナイでもう一つの契約を結ぶ必要があったのであろうか。人々は、その奴隷時代に、神に関する知識と、アブラハムに与えられた契約の原則の大部分を忘れてしまっていた。神は、彼らをエジプトから救出し、神の力と恵みを彼らにあらわし、彼らが、神を愛し、信頼するようになることを望まれた。神は、彼らを紅海にお導きになった。そこでエジプト人の追跡によって、彼らは全く逃げ場を失ってしまった。それは彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るためであった。このようにしてのちに、神は彼らを救い出されたのである。こうして、彼らは神に対する愛と感謝に満たされ、神が彼らを救う力を持っておられることを確信した。神は、地上の奴隷生活からの救済者として、ご自分を人々に結びつけられた。

しかし、さらに大きな真理を彼らの心に深く印象づけなければならなかった。彼らは、偶像礼拝と腐敗のなかで生活していたので、神の神聖さと、自分たちの心のはなはだしい罪深さと、自分たちの力だけでは、神の律法を守ることができないこと、そして、彼らには、救い主が必要であることを真に自覚していなかった。こうしたことを、すべて、彼らは学ばなければならなかった。」（人類のあけぼの上巻 441）

b. イスラエル人が神の律法を守ると約束してからわずか数週間後に何が起こったのでしょうか（出エジプト 32:1–6）。シナイで結ばれた契約において、誰に責任があったのでしょうか（ヘブル 8:8）。

「彼らの大罪のためにひどく落胆し、激怒した彼［モーセ］は、わざと民の見えるところで石の板を壊すようにという神からの指示を受け、板を投げつけた。それは、彼らがごく最近神と交わした契約を破ったことを示すためであった。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］1 巻 1109）

「彼らは、恐るべき威光のうちに律法が宣言されるのを見、山の前で恐れおののいた。しかし、それにもかかわらず、その後わずか数週間しかたたないうちに、彼らは神との契約を破り、偶像にひざまずいて礼拝したのである。彼らは、契約を破ってしまったために、神の恵みを受けることは望めなくなった。そして、今、自分たちの罪深さと、ゆるしの必要を認めた彼らは、アブラハムの契約にあらわされ、そして、犠牲のささげものによって示された救い主の必要を感じるようになった。彼らは今、信仰と愛によって、罪の奴隷からの救い主としての神に結びつけられた。こうしてこそ、彼らは新しい契約の祝福を感謝する用意ができたのである。」（人類のあけぼの上巻 442）

4.　　ペテロの「古い契約」の経験

a.　ゲッセマネに行く前に、ペテロはイエスに何を約束しましたか（ルカ 22:33）。

b.　キリストはペテロになんとお答えになりましたか（ルカ 22:34）。

「ペテロは、弟子になった初めは自分の強さをほこっていた。自分自身の評価によれば、彼もパリサイ人と同じように、『ほかの人たちのよう』ではないと考えた。キリストはあの裏切りの夜、弟子たちに警告を発して、『あなたがたは皆、わたしにつまずくであろう』と言われたが、その時も、ペテロは『たとい、みんなの者がつまずいても、わたしはつまずきません』と確信にみちて言った（マルコ 14：27, 29）。ペテロは、自分の危険な状態を知らなかった。彼をおとしいれたのは自己過信であった。」（キリストの実物教訓 132，133）

c.　その後すぐに、イエスとの関係について尋ねられた時、ペテロはどのように反応しましたか（マタイ 26:69–74）。

d.　ペテロがイエスを拒んだとき、このお方はどのように反応なさいましたか（ルカ 22:61, 62）。

「ペテロは、にわとりの鳴く声を聞いて、キリストの言葉を思い起こし、自分がなんということをしたかに恐れおののいて振り返って、主の方を見た。ちょうどその瞬間、キリストもペテロをご覧になった。そしてそのまなざしは悲痛な表情ではあったが、そこにペテロに対する憐れみと愛とが混じっていた。ペテロは、それを悟って外に出て激しく泣いた。彼の心をくだいたのはキリストのその時の表情であった。ペテロはここで人生の転換期に立っていた。そして彼は心から罪を悲しんで悔い改めた。彼は、取税人のように真心から悔い改めた。そして、取税人が受けたと同じ神の憐れみを受けた。キリストのみ顔が、彼に赦しの確証を与えたのである。」（キリストの実物教訓 133）

「イエスが目をさまして祈りなさいと命じられたのに眠っていた時、ペテロはこの大きな罪に対して道を備えていた。弟子たちはみな、あの危機の時に眠ったことによって、大きな損失をこうむった。キリストは、彼らが経験しなければならない激しい試練をご存じだった。試練に対する彼らの備えができないように、サタンが彼らの感覚を麻痺させようと働くのをイエスは知っておられた。そこでイエスは彼らに警告をお与えになったのである。園にいた時間に、目をさまして祈っていたら、ペテロは自分自身の弱い力にたよるがままに放ってはおかれなかったであろう。彼は主をこばむようなことをしなかったであろう。弟子たちがキリストの苦悶に共に目をさましていたら、彼らは十字架上のイエスの苦難を仰ぎ見る備えができていたであろう。彼らはキリストの圧倒的な苦悶の性格をある程度理解したであろう。彼らはご自分の苦難と死とよみがえりを予告しておられたイエスのみことばを思い出すことができたであろう。」（各時代の希望下巻 211）

木曜日 *2月22日*

5.　　キリストがなければ、何もできない

a.　わたしたちが自分たちだけで罪と戦うというのは、どれほど無駄なことなのでしょう（ローマ 7:14, 15, 18–25; ヘブル 8:7）。

「奴隷状態の精神は、自分自身の力で律法の要求を満たそうと努力し、律法主義の宗教に従って生きようとすることによって生じる。わたしたちがアブラハムの契約、すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による恵みの契約の下に来る時にのみ希望がある。アブラハムに伝えられた福音、それによって彼は希望を持ったのであるが、それと同じ福音が、今日のわたしたちに伝えられており、それによってわたしたちは希望を持つのである。アブラハムは信仰の創始者、また完成者であるイエスを見上げた。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］6 巻 1077）

b.　キリストはこのお方なしでのわたしたちの努力について何と言われましたか（ヨハネ 15:5）。

「ぶどうの木の生命は枝の生命となる。 そのように、罪とがのうちに死んだも同様の魂は、キリストにつながることによって生命を受けるのである。キリストを自分自身の救い主として信じる信仰によって、この結合がなされる。罪人は自分の弱さをキリストの強さに、自分のむなしさをキリストの充実に、自分のもろさをキリストの耐久力に結合させる。そのとき彼は、キリストの心を持つのである。キリストの人性はわれわれの人性に触れ、われわれの人性は神性に触れたのである。こうして聖霊の働きを通して、人は神の性質にあずかる者となる。彼は愛するみ子のうちに受け入れられる。

キリストとのこのつながりは、一度できたら、持続しなければならない。［ヨハネ 15：4 引用］これは気まぐれな接触でもなければ、ついたり離れたりする関係でもない。枝は生きたぶどうの木の一部となるのである。根から枝への生命と力と実りの伝達はさまたげられることなく、たえまなく行われる。ぶどうの木から離れると、枝は生きることができない。あなたがたはわたしを離れては生きることができないと、イエスは言われた。あなたがたがわたしから受けた生命は、たえまないまじわりによってのみ持続されるのだ。わたしなしでは、あなたがたは一つの罪にうち勝つことも、一つの試みに抵抗することもできない。」（各時代の希望下巻 163，164）

金曜日 *2月23日*

個人的な復習問題

1. **シナイでのイスラエルの誓いの良い面と悪い面を考えなさい。**
2. **イスラエルの弱点からわたしたちはどのような警告を受けるべきでしょうか。**
3. **神はどのようにしてわたしたち自身の間違いや失敗を最大限に生かすことができるのでしょうか。**
4. **ペテロが倒れた時のキリストの態度について、わたしたちは何を覚えるべきでしょうか。**
5. **なぜイエスはご自身をぶどうの木にたとえられたのでしょうか。**

第一安息日献金
モルドバ、ヒンチェスティの礼拝堂と学校のために

ヒンチェスティは、モルドバ共和国北西部に位置する同名の地区の行政自治体です。 この地区の人口は 122,000 人で、往来の激しいルーマニアとウクライナに通じる道が交差しています。この地域の経済は農業（ブドウ園や果樹園を含む）のほか、靴、衣類、家具、コンクリート建築ブロックなどの他の製品に基づいています。

この地域では正教が主要な宗教 (96%近く) ですが、他のプロテスタント宗派が残りの 4%を占めています。SDA 改革運動のメッセージは、1959 年にここに移住してきた一家族によってこの街にもたらされました。他の 2 家族がそれぞれ 1973 年と 1983 年に教会に加わりました。 それで、神の恵みによって教会員の数が増加し、その結果、1990 年にここに会衆が組織されました。

最初、会員たちは地元の家族の家に集まり、そこで礼拝をしました。 その後、2000 年に民家を購入し、20 年間礼拝所として使用されました。現在、会員の大多数は若い家族や子供たちです。町の郊外には、地球の歴史の最後の瞬間に備えて子供たちが教えられる教育教室とともに、福音を広めるための礼拝堂を建てるために、より広い土地が確保されています。

「つつましい礼拝の家が建てられるばかりでなく、教会学校の恒久的な設立のために必要な手配はすべてなされるべきである。」（教会への証 6 巻 108）

「主は教会学校のための道を備えて何かがなされるや否や、それらを設立する働きにたずさわる人々を持っておられる。…

安息日遵守者が自分の子供たちを世俗的な交わりから分離させ、彼らを最高の教師たち、すなわち聖書をすべての学習の基礎とする教師たちの下に置くべき時である。」（同上 109）

主が世界中にいるわたしたちの親愛なる兄弟たちの心に触れ、彼らを祝福してくださって、この事業に惜しみなく貢献してくれますように。ここでの光が広まることができますように。そして共に救い主イエス・キリストの来臨を早めることができますように。あらかじめ皆さんにお礼申し上げます！

ヒンチェスティから皆さんの兄弟より

地上と天の聖所

暗唱聖句：「こうして、ほとんどすべての物が、律法に従い、血によってきよめられたのである。血を流すことなしには、罪の許しは有り得ない。」（ヘブル 9：22）

「キリストは、このはかり知れない尊い宝を、わたしたちのために確保するために、その生命をお与えになったのである。しかし、キリストの血を信じる信仰による新生が伴わないならば、それは滅び行く魂にとって、罪の赦しにも宝にもならないのである。」（キリストの実物教訓 89）

推奨文献：　各時代の大争闘下巻 119-137

日曜日　*2月 25日*

1.　聖所の目的

a.　聖所を建てられた神の御目的は何でしたか（出エジプト 25:8）。

「神のお住みになる場所として聖所を建てるにあたって、モーセは、すべてのものを天上にあるものの型に従って作るように命じられた。神はモーセを山に召して、天の事物をお見せになった。そうして、幕屋とこれに付属するすべてのものは、天の事物にならって形作られることになった。

そこで神は、ご自分の住居をつくらせようとお望みになったイスラエル人に、ご自分のかがやかしい理想の品性を示された。このご品性の型は、神が、シナイ山で律法をおあたえになる際、……彼らに示された。……

しかし、彼らは、自分自身では、この理想に達する能力を持っていなかった。シナイ山においての啓示は、彼らの心に、自分自身の足りなさと無力とを深く思わせただけであった。幕屋で行う儀式の奉仕を通して、もう一つの教訓、すなわち罪の赦しと、救い主に従うことによって生命にいたる能力とについての教訓が、彼らに教えられなければならなかった。」（信仰によってわたしは生きる 192）

b.　聖所の本当の目的を成就するのはどなたでしょうか（ヨハネ 1:14; コリント第一 3:16, 17）。

「聖なる神の栄光―こうした幕屋の象徴の目的は、キリストを通して成就されなければならなかった。」（同上）

2. 地上の聖所

a. 地上の聖所の最初の部屋とその主要な器具について述べなさい（ヘブル 9:1, 2）。

「第一の部屋、すなわち聖所には、供えのパンの机、燭台、香の祭壇があった。供えのパンの机は、北側に置かれていた。それは、上部に飾りが施され、純金でおおわれていた。この机に、祭司は安息日ごとに乳香をふりかけた 12 個のパンを 2 段に重ねて置いた。取りのけたパンは聖なるものとみなされ、祭司がこれを食べた。南側には、7 本に分かれて 7 つのあかりをともした燭台があった。その枝には精巧に細工したゆりに似た花の装飾が施され、全体はひとかたまりの金塊によって作られていた。幕屋には窓がなかったために、あかりは一度に全部消されることはなく、昼夜の別なく光を放っていた。至聖所と神の面前から聖所を隔てているとばりのすぐ前には、金の香の祭壇が置かれていた。祭司は、この祭壇で朝夕香をたき、その角には罪祭の血をつけなければならなかった。そして、この祭壇には大いなる贖罪の日に血が注がれた。この祭壇の火は、神ご自身によって点じられ、大切に保存された。清い香は、日夜聖所の二つの部屋とその周り、そして幕屋の遠くにまで芳しい香りを放った。」（人類のあけぼの上巻 408，410）

b. 至聖所とその奉仕について述べなさい（ヘブル 9:3–7）。

「内部のとばりの奥は至聖所であったが、これが贖罪と仲保との象徴的奉仕の中心であり、また、天と地をむすぶ輪であった。この部屋には、内も外も金でおおわれたアカシヤ材の箱があって、その上の周囲に金の飾り縁があった。それは、神ご自身がしるされた十戒の石の板を収めるために作られたものであった。十戒は神とイスラエルの間に立てられた契約の基盤であったことから、これは神の契約の箱と呼ばれた。」（同上）

「年に 1 度、祭司は聖所のきよめのために至聖所にはいった。そこで果たされるつとめが、年ごとのつとめを完了した。」（同上 419）

3. 永遠の贖い

a. キリストのとりなしの確かな結果は何でしょうか（ヘブル 9:11, 12）。

「わたしたちの大祭司は門の外で苦しまれた時、ご自身の犠牲の供え物を完全にされた。その時、完全な贖罪が民の罪のためになされたのである。イエスはわたしたちの弁護人、またわたしたちの大祭司、そしてわたしたちの仲保者である。それゆえわたしたちの現在の立場は、昔のイスラエルが宮の外庭に立って、祝福された望みであるわたしたちの主であり救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望んでいるそれに等しいのである。…

わたしたちの大祭司が現在とりなしておられるその場所を象徴していた至聖所に大祭司が入って、祭壇に犠牲をささげた時、外ではあがないはささげられなかった。大祭司が、内でとりなしている間中すべての人の心は、犯した罪の許しを願って神の前に悔い改めて頭をたれているべきであった。キリストの死において、型は実体と会い、小羊（キリスト）は、最高の価値を持つ唯一の犠牲をささげられた。…

わたしたちの弁護人としての主のとりなしにおいて、キリストは、人間の徳や、人間のとりなしを必要とはされない。キリストは唯一の罪を負う方であり、唯一の罪のささげ物である。祈りと告白はすべての人のために、一度だけ至聖所に入られた主に対してのみささげられるべきである。」（彼を知るために 73）

b. わたしたちの命はキリストの血によってどのように恩恵を受けることができますか（ヘブル 9:13, 14）。

「わたしたちが自分の罪を告白し、キリストの贖罪の血の力を嘆願するかたわら、わたしたちの祈り、救い主の功績と共に香が天に昇らなければならない。わたしたちの無価値さにも関わらず、つねに罪を取り除き、罪人を救うことのできるお方がおられることを念頭に置いていなければならない。神のみ前に悔い改めた心で認める一つ一つの罪を、このお方は取り除いて下さる。この信仰が教会の命である。」（牧師への証 93）

「主に言いなさい、わたしの悪がわたしとわたしの神との間を分離してきました。ああ、主よ、わたしの不法をお許しください。わたしの罪をあなたの覚えの書から除去してください。このお方の聖なる御名をほめよ。このお方にはゆるしがある。そしてあなたは改心して、変えられることができる。」（同上 98）

「キリストの血は効力があるけれども、それは絶えず塗られる必要がある。……

もし、旧約時代に清くない者が、血をふりかけることによって清められる必要があったとすれば、この終わりの危険な時代に生存し、サタンの誘惑にさらされている者にとって、キリストの血を日毎に心に塗ることはどれほど重要不可欠なことであろうか。」（信仰によってわたしは生きる 200）

4.　新しい契約の有効性

a.　恵みの契約はいつ批准されましたか（ヘブル 9:22–24）。

「恵みの契約は、まず、エデンで人間に与えられたのである。人間が堕落したあとで、女のすえがへびのかしらを砕くという約束が与えられた。この契約は、すべての人に罪のゆるしを与え、キリストを信じる信仰によって、その後従うことができるように、神の恵みの助けを与えた。それは、また、神の律法に忠誠を尽くすことを条件にして、永遠の命を約束した。こうして、家長たちは、救いの希望を与えられたのである。

この同じ契約は、アブラハムにくり返されて、『地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう』という約束が与えられた（創世記 22：18）。この約束はキリストを指示したものであった。アブラハムは、このことを理解し（ガラテヤ 3：6，16 参照）、キリストに頼って罪のゆるしを求めた。彼が義と認められたのはこの信仰であった。アブラハムとの契約は、神の律法の権威をも維持した。主は、アブラハムに現れて、『わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ』と言われた（創世記 17:1）。この忠実なしもべについて、神は、『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った』とあかしされた（同 26：5）。そして、主は、『わたしはあなた及び後の代々の子孫と契約を立てて、永遠の契約とし、あなたと後の子孫との神となるであろう』と彼に宣言された。

この契約はアダムと取りかわされ、また、アブラハムにくり返して与えられたとはいえ、キリストの死によって初めて批准されたのである。これは、初めて贖罪の知らせがかすかながら与えられたときから、神の約束によって存在していたのである。人々は、これを信仰によって受け入れていた。しかし、それがキリストによって批准されたときに、それは新しい契約と呼ばれた。神の律法がこの契約の基礎であった。律法は、単に、神のみこころに人々をもう一度調和させ、彼らが神の律法に従うことができるようにする手段であったに過ぎない。」（人類のあけぼの上巻 439，440）

b.　使徒パウロはヘブルの犠牲制度がキリストにおいてどのように成就されたかということをどのように説明しましたか（ヘブル 9:24–26）。

「あがない主が人類の大祭司として、ご自身の命を犠牲にすることにより、1 度だけすべての者のために罪の償いをされて、それから天の聖所においてご自分の務めをなさる、その主のみわざをわかりやすく説くパウロに耳を傾けよ。パウロの言葉を聞いていた者たちは、自分たちの待望していたメシヤがすでに来られたこと、キリストの死がすべての犠牲のささげ物の本体であったこと、また、天の聖所におけるキリストの務めは、背後にその影を持ち、ユダヤの祭司の務めを明らかにする、偉大な実体であるということを理解させられた。」（患難から栄光へ上巻 265-267）

木曜日 *2月29日*

5.　　キリストの再臨

a.　恵みの契約を受け入れる者に何が約束されていますか（ヘブル 9:27, 28; 詩篇 50:1–5; イザヤ 25:9）。

「主は、わたしたちが偉大なあがないの計画をよく理解し、神の子供たちとしての大いなる特権を認識し、感謝しつつ従順にそのみ前を歩むことを、望んでおられる。主はまた、わたしたちが毎日喜びつつ、新しい生命にあふれて主に仕えることを望んでおられる。小羊の命の書に名前を記された感謝と、またわたしたちのためにみ心をお痛めになる神に、わたしたちの心配事をおまかせすることのできる感謝とが、わたしたちの心のうちにわいてくるのを、神は望んでおられる。わたしたちは主の嗣業であり、キリストの義は聖徒の白衣であり、わたしたちには、救い主がまもなくおいでになるという祝福にみちた望みがある。」（キリストの実物教訓 278）

「わたしたちは祝福された望み、栄光に満ちた主なる救い主イエス・キリストの来臨を待ち、望み、祈る旅人であり、寄留者である。もしわたしたちがこれを信じ、それを実生活に持ち込むなら、この信仰と希望がなんと力強い行動を鼓舞し、互いのためになんと熱烈な愛があることであろう。神の栄光のためになんと注意深い聖なる生活があることであろう。そして報いの報酬に関する見解において、わたしたちと世との間にはなんと明確な境界線が明示されることであろう。

キリストが来られるという真理はすべての人の思いの前に保たれているべきである。」（伝道 220）

b.　わたしたちの祈りにはどのような嘆願が含まれるべきでしょうか（黙示録 22:20）。

金曜日 *3月1日*

個人的な復習問題

1.　神は聖所を学ぶわたしにどのような祝福を与えて下さっているでしょうか。
2.　聖所の中のそれぞれの注目すべき器具の意義を説明しなさい。
3.　わたしたちのためにキリストが犠牲になったことについて何を理解する必要がありますか。
4.　アブラハムの時代にすでに存在していたにもかかわらず、なぜ新しい契約と呼ばれているのですか。
5.　わたしたちの希望の最高点は何ですか、またそれはわたしたちの日常生活にどのような影響を与えますか。

キリストの犠牲のまさったところ

暗唱聖句：「しかるに、キリストは多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた後、神の右に座し、それから、敵をその足台とするときまで、待っておられる。彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。」（ヘブル 10：12-14）

「パウロとその仲間の働き人たちは、キリストのあがないの犠牲を信じる、信仰による義についての教理を宣べ伝えた。彼らは、キリストが堕落した人類の救いようのない状態をご覧になり、みずから神の律法に従う生活をなさって、不従順の罰をお受けになることにより、彼らをあがなうために来られた方であると教えた。そして十字架の光により、これまで真の神を知らなかった多くの人々が、み父の愛の偉大さを理解しはじめた。」（患難から栄光へ上巻 223，224）

推奨文献：　各時代の希望上巻 183-195

日曜日　*3 月 3 日*

1.　効力のない動物の犠牲

a.　なぜ地上の聖所で捧げられた犠牲は罪を許すことができなかったのでしょうか（ヘブル 10:1–4）。

「獣の血は神の律法の違反に対する贖いの犠牲として、神の御要求を満足させることはできなかった。獣の命は罪を犯している罪人の命よりも価値が低かったので、罪のための贖いとなることはできなかった。それはただ御子という供え物の型としてのみ、神に受け入れられるだけであった。・・・

神は人を完全で高潔な者として造られた。だから罪を犯した後、彼が完全で純潔な状態であったよりも、もっとまさった価値のあるものが、供え物となるまで、彼のために神に受け入れられる犠牲を供えることはできなかった。」（彼を掲げよ 24）

「いけにえをささげる礼拝の制度全体は、世の人々をあがなわれる救い主の死を予表していた。それらの献げ物が幾時代にわたってさし示してきた大事件が完結されると、その献げ物にはもう何の効力もないのだった。」（各時代の希望上巻 193）

2.　　完全な資格ある大祭司

a.　どなただけが罪人を贖うことがおできになりますか、それはなぜですか（ヘブル 10:5–10）。

「キリストに何らかの要求がなされていたわけではなかった。このお方はご自分の命を捨て、それを再び取り上げる力を持っておられた。贖いの働きを引き受ける義務があったわけではなかった。このお方がなさったのは自発的な犠牲的行為であった。このお方の命は人を堕落した状態から救うのに十分価値あるものであった。」（彼を掲げよ 24）

b.　何がキリストにわたしたちの大祭司となる権威を与えたのでしょうか（ヘブル 10:11–14）。

「けがれのない神のみ子は、その肉体はむち打ちで裂け、しばしば祝福のうちにさし出されたその手は横木に釘づけられ、愛の奉仕に疲れを知らなかったその足は木にうちつけられ、王の頭はいばらの冠で刺され、ふるえる唇は苦悩の叫びにかたどられて、十字架にかかっておられた、しかもイエスがしのばれたすべてのことは―その頭と手と足から流れた血のしたたり、その肉体を苦しめた苦痛、天父のみ顔がかくされた時にその魂を満たした言いようのない苦悩―人類の子らの一人一人に向かって、神のみ子がこの不義の重荷を負うのを承諾されるのはあなたのためであり、死の支配をたちきって、パラダイスの門を開かれるのはあなたのためであると語っている。 荒れ狂う波をしずめて、泡立つ大波の上を歩かれたお方、悪鬼をふるえあがらせ、病気を追い出されたお方、目の見えない人の目を開き、死人をいのちによみがえらせたお方が、いけにえとしてご自分を十字架上にささげられる、しかもそれはあなたを愛されるからである。」（各時代の希望下巻 278）

c.　なぜ、キリストは完全に無罪であられたのに、十字架の上で亡くなられたのでしょうか（コリント第二 5：21; イザヤ 53:5, 6, 8, 11）。

「キリストが人を救う働きを成し遂げられたのは、十字架上の死だけによったのではない。恥辱、苦難、侮辱を受けることは、彼の務めの一部であった。［イザヤ 53：5 引用］違反者の罪のためにキリストはこの罰を受けられた。彼はすべての人のために罰せられ、この故にこのお方はその人がどんな状態に堕落していても、ご自分の義の標準として神の律法を受け入れるなら、すべての魂を贖うことがおできになるのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］4 巻 1147，1148）

「当然キリストが受けられるべきとり扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべきとり扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。」（各時代の希望上巻 11）

3. 恵みの御座へ制限なく近づく方法

a. わたしたちの大祭司としてキリストを持ち、わたしたちはどのようにして恵みの御座に近づくことができるのでしょうか（エペソ 2:17, 18; ヘブル 4:16; 10:19, 22）。

「わたしたちの意志は神のご意志に完全に屈服しなければならない。わたしたちの感情、願望、関心、そして栄誉はキリストの御国の繁栄とこのお方のみ事業の誉れに結びつかなければならない。わたしたちは絶えずこのお方から恵みを受け、そしてキリストはわたしたちからの感謝を受け入れて下さるのである。

このつながりと通信の緊密さが形成されるとき、わたしたちの罪はキリストの上に置かれ、このお方の義がわたしたちに着せられる。このお方がわたしたちのために罪とされ、こうしてわたしたちはこのお方のうちに神の義とされることができるのである。わたしたちはこのお方を通して神に近づくことができ、愛されたお方のうちに受け入れられるのである。」（教会への証 5 巻 229）

「あなたがた各人は自分自身の心を探り、魂の宮の汚れをきよめ、そして目を覚まして祈ろう。イエスを見出すまで探すことを決意しなさい。このお方の愛があなたの心に宿るまで、そしてあなたがこのお方の御霊に自分の生活を従わせていただき、あなたの品性を形成していただくまで、つかんだ手を放してはならない。それから信じなさい、そうすれば、このお方があなたの祈りを聞いて下さることを知りつつ、はばかることなくこのお方の御座に近づくことができる。」（同上 132）

b. キリストとわたしたちが交わるとその結果は何でしょうか（ヘブル 10:23–25）。

「主が人々と会って下さるという尊い保証を伴う聖徒の集会に出席する必要を感じない人々は、神が彼らのために用意しておられる助けの価値を低く評価していることになる。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙｺﾒﾝﾀﾘｰ［E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ］7 巻 934）

「イエスは至聖所の中に立って、今わたしたちのために神のみ前に出て下さる。そこでこのお方は一瞬一瞬、ご自分のうちに完全なご自分の民を提示することをおやめにならない。しかしわたしたちがこのように御父の前に提示されるからといって、自分たちがこのお方のあわれみにつけこみ、不注意で無関心で自己放縦になってもよいと考えてはならない。キリストは罪に仕えるお方ではない。わたしたちがこのお方のうちに完全であり、愛されているお方のうちに受け入れられるのは、ただ信仰によってこのお方のうちに宿っているときだけである。

自分自身の良い行いを通してわたしたちが完全を得ることは決してできない。信仰によってイエスを見る魂は自分自身の義を拒絶する。彼は自分を不完全なものとみなし、自分の悔い改めは不十分で、自分の最も強い信仰も弱いものに過ぎず、彼の最も高価な犠牲も乏しいとみなす。そして十字架の下でへりくだりのうちにひれ伏す。しかし一つの声が神のみ言葉の託宣から彼に語りかける。おどろいて彼はメッセージを聞く、『あなたは彼のうちにあって完全である』。今や彼の魂のうちにすべては休まる。」（信仰と行い 107, 108）

4. 神の慈しみを最優先にわたしたちの心にとめる

a. もしわたしたちがこのような偉大な救いを軽視するならば、その結果は何でしょうか（ヘブル 2:3; 10:26–31）。

「神は、聖霊の働きによって罪人を譴責し、罪を悟らせられる。であるから、聖霊がついに拒否されてしまうならば、神はその魂のためにもう何もおできにならない。神のあわれみの最後の手段がとられたのである。罪人は自分を神から切り離した。そして、罪には、それからの救済策がないのである。罪人に罪を認めさせて、悔い改めさせるために働く力が、もうなにも残されていないのである。『そのなすにまかせよ』と神は命じられる（ホセア 4：17）。」（人類のあけぼの上巻 490）

b. なぜわたしたちは、わたしたちのための神の救出を思い出す必要があるのでしょうか、またアドベンチストの先駆者たちはこのことに関してどのような模範をなしていますか（ヘブル 10:32, 33）。

「神のご自分の民への取り扱いはしばしば繰り返されるべきである。どれほどしばしば、主によって昔のイスラエルへのご自分の取り扱いに記念碑が建てられたことであろう！彼らが過去の歴史を忘れないように、このお方はモーセにこれらの出来事を歌にして、親がそれらを自分の子供たちに教えるようにとお命じになった。彼らは記念碑を集めて、それらを見えるように立てた。それらを守るために特別な努力が払われた。こうして子供たちがこれらの事がらについて尋ねるときに、物語全体が繰り返されるためであった。こうして神の民に対する神の保護や救出におけるこのお方のみ摂理的な取り扱いや著しい善や憐れみが、思いにとどめておかれるのであった。『あなたがたは、光に照されたのち、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してほしい』とわたしたちは訓告されている（ヘブル 10:32）。なぜなら、この世代の神の民のために主はふしぎを働かれる神として働いてこられたからである。神のみ事業の過去の歴史はしばしば民、老若の前に持ち出される必要がある。わたしたちはしばしば神のいつくしみ深さを数えて、このお方の驚くべきみわざを賛美する必要がある。」（教会への証 6 巻 364, 365）

「わたしたちの過去の経験に関して、わたしたちは使徒のヘブル人への訓告を実行している〔ヘブル 10:32 引用〕。

わたしたちの生活は神のみ事業に織り込まれている。わたしたちはこの働きからそれて別の関心を持つことはない。そしてみ事業がごく小さい始まりから進展を遂げ、ゆっくりと、しかし着実に強さと繁栄へと達しつつあることを見るとき、自分たちが労し、苦しみ、ほとんど命を犠牲にするばかりだったみ事業の成功を見るとき、わたしたちが神のうちに誇ることをだれが妨げ、禁じるであろうか。このみ事業におけるわたしたちの経験はわたしたちにとって価値あるものである。わたしたちはそれにすべてを投じるのである。」（同上 3 巻 319）

木曜日 *3月7日*

5.　　安全な道

a.　どのようにしたら永遠の命への道を安全に進むことができるでしょうか（ヘブル 10:35–39）。

「勝利を誇ることができるのは武具を身につけた人ではない。なぜなら、その人には戦うべき戦いがあり、勝ち取るべき勝利があるからである。最後まで耐え忍ぶ人こそ救われるのである。…もしわたしたちが勝利から勝利へと前進しないなら、魂は破滅へと後ろに引っ張られる。わたしたちは品性を測るために、人間の標準を掲げてはならない。わたしたちは人がこの低い地上で完全と呼ぶものを十分に見てきた。神の聖なる律法こそ、このお方の道を守っているか否かを決定することができる唯一のものである。もしわたしたちが不従順であれば、わたしたちの品性は神の統治の道徳的規則と調和しなくなる。そしてそれは偽りを述べて言う、『わたしは救われている』と。だれも神の律法を犯す者は救われていない。それはこのお方の天地における統治の基礎である。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 315）

b.　この終わりの時代に神の民の主な特徴は何ですか（黙示録 12:17; 14:12）。

「地上には二種類のグループしかいない。すなわち、イエス・キリストの血染めの旗印のもとに立つ人々と反逆の黒い旗印のもとに立つ人々である。」（原稿リリース 14 巻 161）

「この時に、教会は美しい衣―キリストわれらの義―をまとうべきである。神の戒めとイエスの信仰を高く掲げることによって、世に対して回復され、具現化されるべきはっきりとした決然たる区別がある。」（クリスチャン経験と教え 207）

「わたしたちを十分に、全く、完全に救うキリストの力を信じる信仰が、イエスの信仰である。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 3 巻 172）

金曜日 *3月8日*

個人的な復習問題

1. **なぜ獣の血は救いのために十分ではなかったのでしょうか。**
2. **わたしたちのためのキリストの犠牲の深さを、わたしたちが理解できる範囲で説明しなさい。**
3. **あなたに対するキリストの奉仕についてあなたが最も感謝していることは何ですか。**
4. **宗教生活において、古い経験を思い出す必要があるのはなぜでしょうか。**
5. **今日、多くの人は救いについて何を悟りませんか。**

信仰の英雄たち

暗唱聖句：「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確信し、まだ見ていない事実を確認することである。昔の人たちは、この信仰のゆえに賞賛された。」（ヘブル 11:1, 2）

「人を救う信仰は、キリストを受け入れる者が神との契約関係に入る一つの取引である。真の信仰はいのちである。生きた信仰とは、活力と信頼心とが増し加わり、それによって魂が勝利する力となることを意味する。」（各時代の希望中巻 74, 75）

推奨文献：　福音宣伝者 258–263

日曜日　*3 月 10 日*

1.　アベル

a.　なぜ神はアベルと彼の供え物を受け入れてくださったのでしょうか（ヘブル 11:4）。

「アベルは、贖罪の大原則を理解した。彼は自分が罪人で、彼の魂と神との間の交わりを、罪とその刑罰である死とが妨げているのを知った。彼は、ほふられた犠牲、すなわち、犠牲にされた生命をたずさえてきて、彼が犯した律法の要求を認めた。彼は、流された血によって、来たるべき犠牲、カルバリーの十字架上のキリストの死を見た。そして、彼は、そこでなされる贖罪を信じて、自分が義とされ、供え物が受け入れられた証拠が与えられた。」（人類のあけぼの上巻 68）

b.　なぜ神はカインと彼の供え物を拒まれたのでしょうか（ヘブル 9:22）。

「アベルは、信仰と従順を選び、カインは、不信と反逆を選んだ。万事はこの点にかかっていた。

カインとアベルは、終末に至るまで世界に存在する 2 種類の人々を代表している。一方は罪のために定められた犠牲を受け入れるが、他方は、あえて自分の功績にたよろうとする。彼らの犠牲は、神の仲保のいさおしによらないものであって、神の恵みにあずかることはできない。われわれの罪は、ただイエスの功績だけによって許される。」（同上 63）

2.　　ノア

a.　ノアについて何と書かれていますか（創世記 6:8, 9, 22; ヘブル 11:7）。

「ノアは、世に警告の使命を伝えるとともに、その行為によって、自分が真剣であることをあかしした。こうして彼の信仰は完成され、明白に示された。彼は、神が仰せになったことを、そのまま信じる模範を世に示した。彼は、全財産を箱舟につぎこんだ。彼が、この巨大な舟を陸上で建造しはじめると、群衆がこの奇妙な光景を見、風変わりな預言者の語る熱烈な言葉を聞こうと、四方から集まってきた。箱舟の槌音の一つ一つは、人々に対するあかしであった。」（人類のあけぼの上巻 92）

b.　イエスはこの終わりの時について何と比較なさいましたか（マタイ 24:37–39）。

「洪水前の人々に、報復をもたらす原因になった同じ罪が今日行われている。神をおそれることは、人々の心から消えうせ、神の律法は冷淡と軽蔑をもってあしらわれている。あの時代の極度の世俗化が、現在の世代にも同様に行われている。…神は、洪水前の人々が、飲み食いすることを非難されたのではなかった。神は、彼らの体の必要を満たすために、地の産物を豊富にお与えになったのである。彼らの罪は、与え主であられる神に感謝せずに、これらの賜物を受け、なんの抑制もなく食欲を満たして、堕落したことであった。彼らが結婚することは正当なことであった。結婚は、神が制定されたものである。これは、神が定められた最初の制度の一つであった。神は、この儀式に特別の指示を与え、それを神聖で美しいものとされた。しかし、人々は、こうした指示を忘れ、結婚を悪用して情欲を満たすものにした。

今日も同じ状態である。それ自身、正当なことが、過度に行われている。なんの制限もなく、食べたいだけ食べている。今日、キリストに従うと公言し、その名がりっぱな教会員名簿にしるされている者が、飲酒家と飲み食いしている。不節制が道徳的、また霊的能力をにぶらせて、いやしい情欲にふけらせるに至る。情欲を制することが、自分たちの道徳的責任であることを感じない者が非常に多い。彼らは、情欲の奴隷になる。人々は感覚の快楽を求めて生き、この世界と現世のためだけに生きる。社会のいたるところに浪費が行われている。ぜいたくと虚飾のために、誠実は犠牲にされる。急いで富を得ようとする者は、正義を曲げ、貧者をしいたげ、今なお、『奴隷と人々の魂』は売買されている。社会の上層部にも下層部にも、詐欺、贈収賄、盗みなどが、堂々とまかり通っている。新聞の報道は、殺人の記事で満ちている。冷酷で理由のない犯罪が行われ、人道は全く地に落ちたかのように思われる。」（同上 101，102）

3. ヤコブ

a. ヤコブの経験に暗い汚点を残した恐ろしい罪とは何でしょうか（創世記 25:29–33; 27:18–24）。

「ヤコブとリベカは、目的を達したものの、彼らの詐欺行為によって得たものは、苦悩と悲哀だけであった。神は、ヤコブが長子の特権を得るであろうと言われたのであるから、神が彼らのためにそうしてくださるのを信仰をもって待っておれば、神の言葉は、神ご自身がよいと思われるときに達成されたことであろう。しかし、今日神の子であると公言する多くの人々のように、彼らはこのことを主の手に委ねようとしなかった。リベカは、自分がむすこにまちがったことを勧めたことを非常に後悔した。これが、ヤコブをリベカから引き離す原因になり、彼女はふたたび彼の顔を見ることができなくなった。ヤコブは長子の特権を獲得したその瞬間から、自責の念にかられた。彼は、父と兄と自分の魂と、そして、神に対して罪を犯したのである。彼は、ほんのわずかの時間の間に、一生の悔いを残すことをした。後年、彼自身のむすこたちの罪深い行いが彼の心を苦しめたとき、この光景が彼の前に鮮明によみがえるのであった。」（人類のあけぼの上巻 194）

b. いつヤコブは完全に許され、また義と認められましたか（創世記 32:24–31）。

「彼は、真剣な叫びと涙をもって神に祈った。すると突然、力強い手が彼の上におかれた。・・・こうして、必死の戦いをしながらも、彼は罪の意識に心が重かった。彼の罪が彼の前に立ちはだかって、彼を神から引き離すのであった。しかし、この恐るべき窮地にあって、彼は神の約束を思い起こした。そして、彼は真心から、神の隣れみを哀願した。・・・この方は、『契約の天使』キリストで、ご自分をヤコブに現された。不能となり、激しい痛みに苦しみながらも、ヤコブは、彼を放そうとしなかった。ヤコブは悔いくずおれて天使にすがり、『泣いてこれにあわれみを求め』、祝福を懇願した（ホセア 12：4）。彼は、罪のゆるしの確証をどうしても受けなければならなかった。肉体がどんなに苦痛を感じても、この目的から心をそらせることはできなかった。彼の決意はますます強く、信仰は燃え、最後まで耐えぬこうとするのであった。天使は、ヤコブからのがれようとして、『夜が明けるからわたしを去らせてください』と言ったが、ヤコブは答えて、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』と言った（創世記 32：26）。もしこれが、ヤコブの高慢無礼で自己過信から出たものであれば、彼は、直ちに滅ぼされたことであろう。しかし、それは、自己の無価値を告白するとともに、神が忠実に約束を果たされることを信頼する者の確信であった。

ヤコブは『天の使と争って勝』った（ホセア 12：4）。罪深く、まちがいを犯した人間が、謙遜と悔い改めと自己降伏とによって、天の王に勝ったのである。彼はふるえる手で神の約束にすがった。そして、無限の愛に富む神の心は、罪人の哀願を退けることができなかった。」（人類のあけぼの上巻 214，215）

4. サムソン

a. サムソンのための神の計画を説明しなさい（士師記 13:4, 5）。

「不妊の女であったマノアの妻に、『主の使』が現れて、彼女が男の子を生むことと、その子によって、神がイスラエルをお救いになることを告げた。そのため、主の使いは、彼女の習慣について勧告を与えるとともに、子供の取り扱い方も指示した。・・・そして、子供にも初めからこの同じ禁令が課せられ、それに頭の毛を切ってはならないことが追加された。というのは、その子は、生まれた時から、神に捧げられたナジル人になるからであった。」（人類のあけぼの下巻 208）

b. サムソンの最初の大きな過ちからわたしたちはどのように警告されていますか（士師記 14:1–3）。

「彼がちょうど成人し、神の任命を実行しなければならないとき、他のどんな時よりも神に忠誠を尽くすべき時に、サムソンは、イスラエルの敵と結合してしまった。彼は自分の選んだ者と結婚することによって、神に栄光を帰すことができるか、それとも、自分の生涯によって完成しようとしている目的を達成できない地位に自分をおいているのかどうかをよく問うてみなかった。神をまずあがめようと求めるすべての者に、神は知恵を約束なさった。しかし、自己を喜ばせようとする者には、なんの約束もない。」（同上 212）

「激しい感情の人を強い性格の人と考える者が多いが、実は激情に支配される人は弱い人である。人間の真の偉大さは、その人が支配する感情によるのであって、彼を支配する感情によるのではない。・・・

義務の道を歩んでいて試練にあうならば、必ず神が守ってくださることを確信してよい。しかし、人間が、故意に誘惑の力に身をさらすときに、おそかれ早かれ倒れるのである。

神がご自分の器として、特別の働きのために用いようとなさるその人々を、サタンは全力を尽くして挫折させようとする。サタンは、われわれの弱点を攻撃し、品性の欠点を通じて、人間全体を支配しようとする。そしてサタンは、こういう欠点が人の心にいだかれているかぎり、自分の成功はまちがいないことを知っている。」（同上 218，219）

c. 誓いを破ったサムソンに何が起こりましたか（士師記 16:4, 21）。どれくらい深く彼は自分の罪を悔い改めましたか（士師記 16:22, 28–30; ヘブル 11:32）。

「サムソンは、ペリシテ人の見せ物となって、苦しみとはずかしめを受け、これまでになかったほどに、自己の弱さを知った。そして、彼は、苦難によって悔い改めるに至った。」（闘争と勇気 136）

木曜日 *3月14日*

5.　　ヨセフ

a.　ヨセフとその父ヤコブはその他の息子たちに関してどのような間違いを犯しましたか（創世記 37:2, 3）。 ヨセフに対する憎しみによって、彼の兄弟たちはヨセフに何をしましたか（創世記 37:28–36）。

「［ヤコブの］この愛情さえ、悩みと悲しみの原因になった。不覚にも、ヤコブはヨセフに対する偏愛を表面にあらわして、他のむすこたちのねたみを起こさせた。ヨセフは、兄弟たちの悪い行動を見て非常に苦しんだ。彼は、穏やかに兄弟たちに忠告したが、それはただ、彼らの憎しみと恨みをさらに激しくするだけであった。ヨセフは彼らが神に対して罪を犯すのを見るにしのびなかった。そこで彼は、そのことを父に話し、父の権威によって彼らを改めさせることができるように望んだ。」（人類のあけぼの上巻 229）

「奴隷になることは死ぬよりも恐ろしい運命であった。［ヨセフは］恐ろしさのあまり、泣き叫んで、兄弟たち 1 人 1 人にすがって頼んだがなんの役にも立たなかった。・・・彼らは、ヨセフの哀願に対して心を鬼にして異邦の商人の手にヨセフを渡してしまった。」（同上 232，233）

b.　神はヨセフの運命をどのように変えられましたか（ローマ 8:28; 創世記 45:4–8）。

「ヨセフの生涯はキリストの生涯を代表している。・・・

ヨセフは、エジプトの奴隷になることによって、父の家族の救済者となった。しかし、このことは兄弟たちの罪を軽くするものではなかった。同じようにキリストは敵のために十字架につけられ、人類の贖い主、堕落した人類の救い主、全世界の支配者となられた。しかし、神がご自分の栄光と人類の幸福のために、摂理のみ手によって諸事件を支配されなかった場合と同様に、キリストを殺した人々の罪は、重かったのである。」（同上 271）

金曜日 *3月15日*

個人的な復習問題

1. **わたしたちはどうすればカインの道ではなく、アベルの霊的な道に従うことができますか。**
2. **わたしたちがノアの道を歩むクリスチャンであることを明らかにするものは何でしょうか。**
3. **ヤコブが大きな罪を犯したにもかかわらず、勝利を収めた鍵について説明しなさい。**
4. **親はサムソンの破滅を避けるために子供たちをどのように指導できるでしょうか。**
5. **ヤコブの生涯における神のお働きによってわたしたちはなぜ励まされるのでしょうか。**

イエスを仰ぎ見つつ

暗唱聖句：「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥もいとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。」（ヘブル 12：2）

「もし今日神のみことばを教えている人々が、キリストの十字架をいよいよ高くかかげるならば、その伝道はもっと大きく成功するのである。もし罪人にひとたび十字架を熱心に見させることができるならば、もし彼らが十字架につけられた救い主についての全貌を知り得たら、彼らは神の深い憐れみと自分の罪の深さとを認めるようになるであろう。」（患難から栄光へ上巻 225）

推奨文献：　教会への証 5 巻 199–202

日曜日　*3 月 17 日*

1.　いっさいの重荷をかなぐり捨てて

a.　わたしたちのクリスチャンの歩みにおいて何が重荷になっているのでしょうか（ヘブル 12:1）。

「ねたみ、悪意、邪推、悪口、貪欲などは、クリスチャンが永遠の命をめざす競走に勝利するために、捨て去らなければならない重荷である。われわれを罪におとしいれ、キリストのみ栄えを汚すような習慣や行為は、みな、どんな犠牲を払ってでも捨て去らなければならない。天の祝福は、正義の永遠の原則を犯している人に与えられることはない。一つの罪でも心に抱いているならば、品性を堕落させ、他の人々を誤った道におとしいれるのに十分なのである。」（患難から栄光へ上巻 336）

b.　これらの品性の欠陥をどのように克服することができるでしょうか（ヘブル 12:2）。

「イエスをながめることによって、いっそう明らかに神を見ることができるようになり、わたしたちは、ながめることによって変えられる。同胞に善を行い、彼らを愛することは、わたしたちにとっては自然に行う本能となる。そして、神の品性と全く同じ品性を自分たちの中に形成する。こうして、神のかたちにまで成長することによって、神を知る能力もますます増加する。わたしたちは、ますます、天上の世界との交わりを深め、永遠の知識と知恵の富を受ける力を絶えず強めるのである。」（キリストの実物教訓 331）

2.　　キリストの喜び

a.　キリストがわたしたちのために死なれた主な動機は何でしたか（ヘブル 12:2（下句）; イザヤ 53:11）。

「人類の不法のためにとりなしをなすためにご自身を捧げることによって、キリストは祭司の務めを実行された。報いとして、このお方はご自分の魂の苦しみにより光をごらんになる。このお方の子孫のその命を地上で永遠に長くするのである。」（クリスチャン教育の基礎 402）

「骨折りと犠牲のご生涯の間、神のみ子を支えたものは何であったか。キリストはご自分の魂の労苦の結果をご覧になって、満足された。キリストは、永遠をご覧になり、ご自身の屈辱を通してゆるしと永遠のいのちを受けた人々の幸福をご覧になった。キリストの耳は、あがなわれた者たちの歓喜の叫びを聞きとられた。主はあがなわれた人々が、モーセと小羊の歌をうたっているのをお聞きになった。」（患難から栄光へ下巻 310）

b.　わたしたちはどのようにキリストの自己犠牲の模範に従うことができるでしょうか（ヘブル 12:3; マタイ 16:24）。

「きよめの祝福を受けようとする人たちは、まず自己犠牲の意味を学ばなければならない。キリストの十字架は、『永遠の重い栄光』のかかる主柱である。・・・神に対するわれわれの愛を示すものは、同胞に対するわれわれの愛のかおりである。魂に休息をもたらすのは、奉仕における忍耐である。謙遜に、勤勉に、忠実に働いてこそ、イスラエルの幸福は増し加えられる。神はキリストの道に自発的に従いたいと思う者を支え、強めて下さるのである。」（同上 263）

「神に最も近く生きた人々、知っていて悪い行いをするよりはいのちを犠牲にしようとする人々、神が聖なる光と権能をもって賞賛した人々は、自分たちの性質の罪深さを告白してきた。彼らは自分自身に信頼せず、自分の義を主張せず、キリストの義を深く信頼した。」（同上 264）

「神はあなたに一つの手、信仰をもって、このお方の力強い腕をつかみ、もう一つの手、愛をもって、滅びつつある魂に手を差し伸べるようにとお命じになる。キリストは道であり、真理であり、命である。このお方に従いなさい。肉に従って歩まず、霊に従って歩みなさい。このお方が歩まれたように歩みなさい。これが神のみ旨であり、それはあなたが聖化されることである。あなたが実行しなければならない働きはあなたの命をご自分の栄光のために支えておられるお方のみ旨をなすことである。もしあなたが自分自身のために労するなら、あなたにとって何の益ともならないであろう。他の人の善のために労し、自分を気にかけることは減じ、もっと熱心にすべてを神に捧げることは、神に喜ばれ、このお方の豊かな恵みによって報われる。」（教会への証 2 巻 170）

3. 父と子の関係

a. 愛情深い父は過ちを犯した子らをどのように扱われますか（ヘブル 12:5–11; 黙示録 3:19）。

「ダビデは神が自分を取り扱われる方法から知恵を学んだ。そして謙遜のうちにいと高き者の懲らしめの下に頭を垂れた。預言者ナタンが彼の真の状態が忠実に描写したことは、ダビデに自分自身の罪を知らせ、それらを捨てさせる助けとなった。彼は柔和にそして神のみ前に自らをへりくだらせて勧告を受け入れた。…

わたしたちの主は言われた『わたしは愛している者をしかったり懲らしめたりする』。『すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる』。訓練がつらいものであっても、それは『わたしたちにそのきよさにあずからせるため』に、御父のやさしい愛によって定められたものである。」（教会への証 5 巻 683）

b. 試練の内にあるわたしたちへの神の御目的は何でしょうか（マタイ 5:4）。

「神は『心から人の子を苦しめ悩ますことをされない』（哀歌 3：33）。神が試練と苦悩とをゆるされる時は、『わたしたちの益のため、そのきよさにあずからせるため』である（ヘブル 12：10）。耐えがたく思われる試練も、信仰をもって受けるならば、祝福であることがわかる。この世の喜びを砕く残酷な一撃も、わたしたちの目を天に向ける手段となる。悲しみが彼らを、主にある慰めに導かなかった ならば、イエスを知らないでしまう人がどんなに多いことであろう。

生涯の試練は、わたしたちの品性から不純で粗野なものを取り去る、神の職人である。切り出され、角材とされ、削られ、刻まれ、磨かれるのは苦しい工程である。砥石車におしつけられるのはつらいことである。しかしこうして石は、天の神殿に置かれるように整えられるのである。主は無用の材料に対しては、こんな注意深い、行き届いた手間をかけられない。主の尊い石のみが、宮の型にならって磨かれるのである。」（祝福の山 12，13）

「狭い場所を通ってあなたを導いてこられたのは神である。このお方はこのことにおいて目的を持っておられた。それは患難があなたのうちに忍耐を生み出し、忍耐が経験を、経験が希望を生み出すためである。このお方は試練があなたに臨むことを許された。それはそれらを通してあなたが平安な義の実を経験することができるためである。

神はあなたを苦難と試練を通して導かれた。それはあなたがもっとご自分に完全な信頼と確証を持つためであり、あなたが自分自身の判断をより少なく考えるためである。」（教会への証 3 巻 416）

4.　聖なる者に従う

a.　聖なると清いの意味は何ですか（テサロニケ第一 4:3–7; 5:23, 24）。

「『神のみこころは、あなたがたが清くなることである』と使徒パウロは書いた（テサロニケ第一 4：3）。教会のきよめは、神の民に対して神がなされるすべてのわざの目的である。神は彼らがきよくなるように、永遠の昔から彼らを選んでおられた。神は彼らのためにみ子のいのちを犠牲にされた。それは彼らが真理に従順に従うことによってきよめられ、自己の偏狭さをすべて脱ぎ捨てるためである。神は彼らに個人的な働き、個人的屈服を要求される。彼らが神のかたちに似たものとされ、み霊によって支配される時はじめて、神は信仰を告白する者たちによってあがめられることができる。そして後、救い主の証人として彼らは、彼らのためになされた神の恵みを知らせることができる。

真のきよめは愛の原則から出た働きによってあらわれる。『神は愛である。愛のうちにいる者は、神におり、神も彼にいます』（ヨハネ第一 4：16）。キリストが心に住む人の生活は、敬神の心を行いにあらわすであろう。品性はきよめられ、高められ、気高くされ、あがめられるであろう。純粋な教えは正義の働きとよく混じり合い、天来の教えは聖なる実践と調和するのである。」（患難から栄光へ下巻 262，263）

b.　わたしたちが聖化される主な要因の一つは何ですか（ヨハネ 17:17）。

「暗黒が濃くなり、誤りが増すにつれて、われわれは、真理についてもっと徹底的な知識を持ち、われわれの立場を聖書によって擁護する準備がなければならない。

われわれは、真理によって清められ、神に全く献身しなければならない。そして、主が、ますます、われわれに光を与え、われわれが、主の光に照らされて光を見、主の力によって力づけられることができるように、自分たちの信仰の告白を実践しなければならない。」（初代文集 201）

「『信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである』（ローマ 10：17）。聖書は、品性を改変する大きな能力である。『真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります』とキリストは祈られた（ヨハネ 17：17）。神の言葉を学んで従うならば、それは、心の中で活動を始め、すべての清くない性質を征服する。また、聖霊が降下して、罪を指摘する。すると、心の中に生じた信仰は、キリストに対する愛によって活動しはじめ、体も心も魂も、すべてをキリストのかたちに一致させるのである。こうして神は、み心を行うためにわたしたちをお用いになるのである。与えられた力は、内から外へと作用して、わたしたちに伝えられた真理を他に伝えさせるのである。」（キリストの実物教訓 74）

木曜日 *3月21日*

5.　　聖霊と聖化

a.　どのようにわたしたちの生活の中にキリストの義を受けれいることができますか（マタイ 5:6; ヘブル 10:37—39）。

「自分がどんなに無価値な者であるかを意識する時、心は義に飢えかわくようになるが、この思いは失望させられることがない。心にイエスを入れる余地をつくる者は、イエスの愛を認める。神のご品性のみかたちをそなえたいとあこがれる者はみな満足させられる。聖霊は、イエスを見ている魂を助けのないままにしておかれない。聖霊はキリストの事がらを取り上げて、それを魂に示される。もし目をキリストにそそいでいるなら、みたまの働きは、その魂が神のみかたちに一致するまでやまない。純粋な愛の要素が魂を拡大し、もっと高い教養と天の事物についてのもっと多くの知識を受け入れる余地を 与えるので、その魂は、完全に達するまでは満足しない。［マタイ 5：6 引用］」（各時代の希望中巻 7, 8）

「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もとうとい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べる時に、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生まれ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたちが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる。愛が憎しみに入れ代り、心は神のみかたちにかたどられる。『神の口から出る一つ一つの言で生きる』というのは、このことである（マタイ 4:4）。これが天からくだるパンを食べることである。 」（同上 141）

「罪にとって、それがどこにみいだされようと、『わたしたちの神は、実に、焼きつくす火である』（ヘブル 12：29）。神のみたまは、その力に服するすべての者のうちにあって、罪を焼きつくす。」（各時代の希望上巻 110）

金曜日 *3月22日*

個人的な復習問題

1. **わたしの不死への競走を妨げているかもしれない重荷は何ですか。**
2. **この地上におられる間に、キリストを動機づけた喜びにあずかるためにわたしはどのようにすることができますか。**
3. **善良な、また愛情深い父の調和のとれた責任について説明しなさい。**
4. **わたしたちが聖書に熱中しその教えを適用すると何が起こるでしょうか。**
5. **今日、畏敬の念と敬虔な恐れがこれほど重要であるのに、なぜそれほど珍しいのでしょうか。**

覚えるべき訓告

暗唱聖句：「だから、イエスもまた、ご自分の血で民をきよめるために、門の外で苦難を受けられたのである。したがって、わたしたちも、彼のはずかしめを身に負い、営所の外に出て、みもとに行こうではないか。」（ヘブル 13：12）

「キリストはわれわれの身代りとして、エルサレムの境界の外で苦難を受けられるのであった。主は門の外で死なれたが、そこは重罪人たちと殺人者たちが処刑されるところであった。『キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった』ということばには深い意味がある（ガラテヤ 3：13）。」（各時代の希望下巻 257）

推奨文献：　アドベンチストホーム 507-517

日曜日　*3 月 24 日*

1.　兄弟愛

a.　エペソ教会の具体的な問題は何でしたか（黙示録 2:4, 5）。

「教会員は心も行動も一致していた。キリストに対する愛が、彼らを共に結び合わせる金の鎖であった。彼らは主を更にもっと完全に知ろうとした。そして彼らの生活にキリストの喜びと平安があらわされた。彼らは困っている孤児ややもめを見舞い、みずからは世の汚れに染まずに身をきよく保った。・・・

しかし、しばらくして信者たちの熱意が衰えはじめて、神に対する愛も、お互いに対する愛も薄らいできた。冷淡さが教会にしのび込んだ。真理を受けた時のすばらしい方法を忘れる者もいた。以前の標準を保持していた者が 1 人ずつその持ち場で失格した。このような開拓者たちの重荷を分担し、こうして賢い指導の準備ができていたはずの若い働き人の中には、しばしば繰り返される真理にあきてしまった者たちがいた。彼らは新奇でびっくりさせるようなものを望み、教理の新しい面を紹介して、多くの人々を喜ばせようとしたが、それは福音の根本的な原則に一致していなかった。・・・

このような誤った教理がしきりに説かれた時、意見の相違が出てきて、多くの人々の目がそれ、彼らの信仰の創始者また完成者としてのイエスを見なくなった。教理の重要でない部分を討論したり、人の作ったおもしろい話にふけり、福音を宣伝することに費やされなければならない時間が浪費された。」（患難から栄光へ下巻 283，284）

2.　美しいクリスチャンの特質

a.　使徒パウロによってクリスチャンのどのような特徴が強調されていますか（テトス 1:7, 8; ヘブル 13:1, 2）。

「『もてなしを好む人』（テトス 1：8）は聖霊によって例挙されているうちで、教会に対する責任を負うべき特別な人として数えられている。『不平を言わずに互いにもてなし合いなさない。あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである』（ペテロ第一 4：9，10）。

これらの訓戒は、不思議にも軽視されてきた。クリスチャンと称する人々の間においてさえ、真のもてなしはほとんど実行されていない。わたしたち自身の民の間においてももてなしの気持ちを表す機会は特権と祝福とみなされるべきなのに、そう考えられていない。社交性もほとんど見られず、また困惑や見せびらかしの気持ちを持たずに家族の食卓に二，三人の余分の席をつくろうとする態度もまるで見られないのである。・・・

人が『わたしとわたしの家族』のために、たびたび見せる自己本位の気持ちを神はお喜びにならない。・・・

人をもてなす精神が死滅する時、心は利己主義のために麻痺してしまう。」（アドベンチストホーム 508-512）

b.　旧約聖書にあるクリスチャンのもてなしの模範を二つ挙げなさい（創世記 18:1–8; 19:1–3）。

「聖書は親切なもてなしをすることに、非常な重点を置いている。それはもてなしを義務として命令しているだけではなく、この好意を実行した多くの美しい場面と、それがもたらした祝福の数々を示している。これらの例の中で一番目立っているのは、アブラハムの経験である。・・・

これらの礼儀正しい行為を、神は御言葉の中に記録するだけの十分な重要性があるとお考えになった。そして千年以上も後になって、霊感を受けた使徒がこのことについて『旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにしてある人々は気づかないで御使いたちをもてなした』と言った（ヘブル 13：2）。

アブラハムとロトに与えられた特権は、わたしたちにも拒まれていない。わたしたちもまた神の子たちを厚くもてなすことによって、天使をわたしたちの住居に迎え得るのである。今日においても、天使は人間の形をとって人々の家庭に入り、歓待される。そして神の御顔の輝きの中に住むクリスチャンは、いつも目に見えない天使に付き添われており、これらの天使たちは、わたしたちの家庭に祝福を残していくのである。」（同上 507）

3.　結婚を重んじる

a.　神はいつ結婚の制度を制定なさいましたか（創世記 1:26–28; 2:18, 21–24）。キリストはご自分のお働きの中でどのように結婚を祝福なさいましたか（ヨハネ 2:1–5）。

「結婚の挙式をされたのは神であった。このようにこの制度の制定者は宇宙の創造者である。『すべての人は結婚を重んずべきである』。この制度は人に与えられた最初の賜物の一つで、人間の堕落後アダムがパラダイスの門の外に持ち出した二つの制度の一つである。この制度に関する神の原則を認めてそれを守る時、結婚は祝福となる。それは人類の純潔と幸福を保護し、その社会的な必要を満たし、身体的、精神的、道徳的性質を向上させる。

アダムの助け手としてエバを与えられたお方が結婚の祝いの席上で最初の奇跡を行われた。友人や親族が喜び合っていた祝いの場所で、キリストは公の伝道を開始されたのである。こうしてキリストは婚姻を是認し、御自ら制定された制度として認められた。・・・

またキリストはご自身とご自分があがなわれた人間との結合の象徴として結婚を尊ばれた。すなわちキリストご自身が新郎で、花嫁は教会である。キリストは教会について、ご自分が選ばれたものとして、『わが愛する者よ、あなたはことごとく美しく、少しの傷もない』と仰せになっている。」（アドベンチストホーム 15, 16）

「キリストはこのような悪を調整するために来られた。そしてキリストが行われた第一の奇跡は婚姻の席でなされた。これによってキリストは結婚が純潔に汚れなく守られる時、それは神聖な制度であることを世人に宣言された。」（同上 383）

b.　離婚について質問された時、キリストはパリサイ人になんと言われましたか（マタイ 19:1–8）。結婚の誓いはどのぐらいの期間続けなければなりませんか（ローマ 7:1–3; コリント第一 7:39; マラキ 2:14–16）。

「若い人の心では、結婚というものが、ロマンスでおおわれているので、想像によって結婚を覆っているこのロマンスという特色を取り去って、結婚の制約に含まれている重い責任感を心に印象づけることは困難である。この誓約は二人の運命を、死の手しか断つことができないきずなで結び合わせる。

婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずについて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。」（同上 380）

4. 忠実な指導者たちを尊敬する

a. 霊感に従って、教会のメンバーは彼らの忠実な指導者たちについてどのように考慮しなければなりませんか（ヘブル 13:7; テサロニケ第一 5:12, 13）。

「聖書は、神がご自分の使者として行動するように召された人々を、軽々しく非難することがないように特に教えている。使徒ペテロは、極悪の罪人を描写して言っている。『大胆不敵なわがまま者であって、栄光ある者たちをそしってはばかるところがない。しかし、御使たちは、勢いにおいても力においても、彼らにまさっているにかかわらず、彼らを主のみまえに訴えそしることはしない』（ペテロ第二 2：10, 11）。また、パウロは教会の上に立てられた者について、勧告を与えて、『長老に対する訴訟は、ふたりか 3 人の証人がない場合には受理してはならない』と言っている（テモテ第一 5：19）。神の民の指導者と、教師としての重い責任を人々に負わせられた神は、人々がそのしもべたちをどのようにあつかうかの責任を問われる。われわれは、神が尊ばれた人々を尊ばなければならない。」（人類のあけぼの上巻 462）

b. アロンとミリアムがモーセの指導に反逆した時、神は彼らをどのように対処なさいましたか（民数記 12:1–10; 出エジプト 20:12）。

「神が、神の働きの重荷を負わせられた人々をねたみ、つぶやくすべての者にとって、ミリアムに下った罰は、自分に対する譴責であると思わなければならない。」（同上）

「親は、ほかのだれも受けることのできない愛情と尊敬を受ける資格がある。神は、お与えになった子供たちの責任を親に負わせられた。そして、子供たちが幼いころは、親が子供たちに対して、神の立場に立つことを神ご自身が定められた。親の正当な権威を拒む者は、神の権威を拒んでいる。第 5 条は、子供たちが親を尊敬し、親に従順に従うことを要求しているだけでなく、親を愛し、いたわり、重荷を軽くし、その評判をまもり、老齢の彼らを助け、慰めることを要求している。それは、また、牧師、統治者、その他神が権威をおゆだねになったすべての人を尊敬するように命じている。」（同上 359）

c. 現代社会では聖書のどのような理解が奇妙にも忘れ去られていますか、またそれはあまりにも頻繁にです。なぜでしょうか（ヘブル 13:17, 18; レビ記 19:32）。

「あなたはしばしば、自分よりも長年の経験を持ち、自分よりも賢明な判断を下し、言葉を出すのにふさわしい男女よりも、自分の意見を優先させる。」（教会への証 2 巻 163）

木曜日 *3月28日*

5. イエスはいつも同じ

a. キリストの二つの性質について何と書かれていますか（イザヤ 9:6; ヨハネ 1:1–3, 14; ヘブル 1:1–3, 6–10）。

「キリストはご自分の人性によって人類に接し、ご自分の神性によって神のみ座をとらえておられた。人の子としてイエスは服従の模範をわれわれに示された。神のみ子としてイエスは服従する力をわれわれに与えてくださる。ホレブ山のやぶの中から『わたしは、有って有る者。・・・イスラエルの人々にこう言いなさい、「『わたしは有る』というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました」とモーセに語られたのはキリストであった（出エジプト 3：14）。これはイスラエルの救済についての保証であった。だからキリストは、『しもべのかたち』をとっておいでになったとき、ご自分を『わたしは有るという者』として宣言された。ベツレヘムの子、柔和で心のへりくだった救い主は、『肉において現れ』た神であった。（テモテ第一 3: 16）。イエスはまたわれわれにこう言われる、『わたしはよい羊飼いである』『わたしは生きたパンである』『わたしは道であり真理であり、命である』『わたしは天においても地においてもいっさいの権威を授けられた』（ヨハネ 10：11，6：51，14：6，マタイ 28：18）。わたしはすべての約束の保証である。わたしは実在する、恐れることはない。『神われらと共にいます』ということばは、われわれが罪から救われることについての保証であり、われわれが天の律法に従う力についての保証である。」（各時代の希望上巻 9，10）

b. キリストは受肉の際に神聖な特質を何か失いましたか、説明しなさい（マラキ 3:6; ヘブル 13:8; ヤコブ 1:17）。

「神は永遠に存在しておられた。このお方こそが偉大な『わたしは有る』というお方である。詩篇記者はこう宣言している『山がまだ生れず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる』。このお方は永遠に存在なさる高く崇高なお方である。・・・このお方は無限であられ、どこにでも偏在なさる。わたしたちの言葉はこのお方の偉大さと威厳を述べることができない。」（医事伝道 92）

金曜日 *3月29日*

個人的な復習問題

1. **エペソ教会で生じた落とし穴からどのように逃れることができますか。**
2. **なぜもてなしは教会においてこれほど貴重な価値あるものなのでしょうか。**
3. **もしわたしたちが聖書について真剣に考慮するなら、結婚に関してどのように理解するべきでしょうか。**
4. **第五条の遠大な範囲について説明しなさい。**
5. **キリストの二つの性質を大切にすることがわたしたちにとって重要なのはなぜでしょうか。**

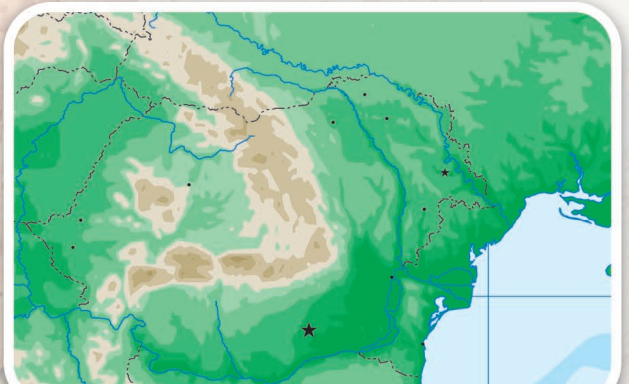
第一安息日献金

1月6日

ルーマニア・ブレアザの「エデン」
健康センターのために
(4 ページ参照)

2月3日

世界災害救済のために
(25 ページ参照)



3月2日

ブラジルのサンパウロ、ベレンの
礼拝堂の改修のために
(46 ページ参照)